1. 2025年度海外留学（実績）

対象学科	派遣先大学等	派遣期間	派遣人数	単位認定	研修目的等
英米語学科	アルバータ大学（カナダ）	2025年4月～2025年12月 （9ヶ月）	1	有	派遣先であるカナダに滞在しながら多様性を尊重する多文化共生社会を理解するとともに、グローバル社会で活躍するために必要な実践的英語力を向上させる。
中国語学科	北京師範大学（中国）	2025年2月～翌年1月 （12ヶ月）	1	有	グローバル社会で活躍しうる有為な人材の育成を目標とし、国際未来社会で求められる中国語の実践的な能力を向上させるとともに、中国の社会や文化への理解を深める。
	北京師範大学（中国）	2025年9月～翌年2月 （6ヶ月）	1	有	
	復旦大学（中国）	2025年2月～翌年1月 （12ヶ月）	1	有	
	浙江大学（中国）	2025年2月～翌年1月 （12ヶ月）	6	有	
	東呉大学（台湾）	2025年9月～翌年2月 （6ヶ月）	2	有	グローバル社会で活躍しうる有為な人材の育成を目標とし、国際未来社会で求められる中国語の実践的な能力を向上させるとともに、台湾の社会や文化への理解を深める。

2. 2025年度海外研修（実績）

（注）○は奨学派遣

対象学科等	派遣先大学等	派遣期間	派遣人数	※単位認定	研修目的等
日本語学科	○ウーロンゴン大学（オーストラリア）	2026年2月14日～3月2日（17日間）	1	—	オーストラリアで行われている日本語教育の現状を理解するとともに、授業実践を通して日本語に関する専門知識、日本語教育に関する知識と能力を身につける。
英米語学科	○ハワイ大学（アメリカ）	2025年8月24日～9月14日（22日間）	9	有	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、派遣先国の社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。
	カンタベリークライストチャーチ大学（イギリス）	2025年8月23日～9月7日（16日間）	6	有	
	シーキューユニバーシティ（オーストラリア）	2026年2月7日～2月28日（22日間）	7	有	
中国語学科	北京語言大学（中国）	2025年8月3日～8月30日（28日間）	8	有	中国語の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を伸ばすとともに、実際に中国に滞在しながらコミュニケーションや文化を体験し、国際未来社会で求められる実践的な能力を高める。
	○東呉大学（台湾）	2026年2月2日～2月8日（7日間）	6	—	台湾の標準語としての「国語」と明海大学で学んだ「普通語」との発音や語彙における差異を調査。同時に東呉大学での学生交流などを通じ、現地の社会・文化・習慣への理解を深める。
外国語（教職）	ウーロンゴン大学（オーストラリア）	2026年2月14日～3月2日（17日間）	4	—	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、教育の分野で活躍できる能力を身につける。
経済学科	○シーキューユニバーシティ（オーストラリア）	2026年2月7日～2月28日（22日間）	12	有	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、派遣先国の社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。
	アジア研修（シンガポール）	2025年8月31日～9月7日（8日間）	13	—	現地企業の視察を通して、異文化を理解し、日本企業または外資系企業がどのようにアジアでビジネスを展開しているか、またその課題について学ぶ。
不動産学科	○ハワイ大学（アメリカ）	2025年9月2日～9月9日（8日間）	4	—	派遣先国の不動産開発現場を視察するとともに、協定大学で現地不動産関連の講義を受け、グローバルな感覚や不動産学の知見を深化させる。
	ハワイ大学（アメリカ）		1	—	
	○建国大学校他（韓国）	2026年2月22日～2月27日（6日間）	1	—	
	建国大学校他（韓国）		2	—	
HT学科	○ハワイ大学（アメリカ）	2025年8月25日～9月5日（12日間）	8	—	世界有数の観光地であるハワイの観光産業施設等を見学し、ハワイの魅力や歴史・文化がどのように観光に影響しているか理解を深めるとともに、観光関連の講義を受け、英語の運用能力を実践する。
口腔保健学科	○ハワイ大学（アメリカ）	2025年8月31日～9月7日（8日間）	5	—	歯科衛生士養成教育に関連した講義を受講するとともに、キャンパス内施設や開業歯科クリニックの見学を行い、米国の歯科衛生士の役割や業務を理解し、口腔保健に基づく歯科衛生活動について論理的に考える視野を備える。

※単位認定に当たっては、研修出発前後の事前・事後授業等、現地での研修及び授業外学習の時間数を満たし、その成果が認められた場合に単位を認定します。

長 期 留 学 成 果 報 告 書

留学先国及び留学先大学： アルバータ大学（カナダ）

留学期間： 2025 年 4 月 ～ 2025 年 12 月

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400 字以上）

EAP136 では語学研修クラスとして基礎英語力の向上を目的に、スピーキングを中心とした学生主体の 4 技能演習が実施された。授業では常に英語を用いた活動が行われ、実践的なコミュニケーション能力の向上が重視されていた。リーディングにおいては、速読練習や学術論文の読解を通して、限られた時間の中で必要な情報を的確に把握する力を養った。ライティングでは、読んだ論文の要約やパラフレーズを時間制限内で行い、内容を簡潔かつ論理的に表現する力の向上を図った。スピーキングでは、カナダの先住民族文化に関する探求学習を基にプレゼンテーションを行い、自身の考えを英語で整理し発信する経験を積んだ。また、AI や IT を活用した授業を通して、資料作成や情報収集の効率化を学び、現代的な学習手法にも触れることができた。さらに、カナダの建国過程や先住民族と欧州探検家の対立といった歴史的背景、ならびに現在のカナダと世界各国との政治的関係について理解を深めることで、語学力のみならず国際的視野や多文化理解を養うことができた。本研修を通じて、英語運用能力の向上だけでなく、主体的に学ぶ姿勢の重要性も実感した。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

留学中は学生寮で生活し、主に友人との交流を通して英語を使用する機会を多く得た。授業後や週末には現地の学生や留学生と共に外出したり、観光や食事を楽しんだりする中で、自然な形で英語によるコミュニケーションを行った。こうした日常的な活動を通じて、教室では得られない実践的な表現力や聞き取り能力を身につけることができた。また、異なる文化的背景を持つ友人と過ごす中で、価値観や考え方の違いに触れ、自身の視野が広がったと感じている。意見交換や何気ない会話の積み重ねが、相手を理解しようとする姿勢の大切さを学ぶきっかけとなった。さらに、買い物や公共交通機関の利用など日常生活においても英語を使う場面が多く、自立して行動する力が養われた。この留学生活を通して、海外での生活に対する不安を乗り越え、自信を持って行動できるようになった。友人との交流を中心とした経験は、語学力の向上だけでなく、適応力や主体性の成長にもつながり、今後の学習や将来に生かせる貴重な財産となった。

３　留学を振り返って

（１）留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

過去に二度、ハワイ大学において三週間の短期留学を経験していたため、今回の留学前には英語でのコミュニケーションに対する大きな不安はなかった。しかし、本留学ではより専門的かつ実践的な学習環境の中で生活することで、自身の英語運用能力の課題を改めて認識する機会となった。授業や友人との日常的な交流を通して、単に会話が成立するだけでなく、相手の意図を正確に理解し、自分の考えを論理的かつ明確に伝える重要性を実感した。また、多国籍の学生と関わる中で、多様な価値観や文化的背景を尊重しながら協働する姿勢が身についた。留学前は与えられた課題に取り組む受動的な学習が中心であったが、現地では主体的に発言し行動することが求められ、自ら考え意見を述べる力が養われたと感じている。さらに、海外での生活を通して時間管理や自己判断の場面が増え、自立心や問題解決能力も向上した。本留学を通じて、語学力の飛躍だけでなく、異文化への理解、主体性、適応力といった総合的な成長を実感することができた。過去のハワイ留学では主に英語に慣れることが目的であったが、今回は学術的内容や探求活動にも取り組み、より高いレベルで英語を運用する経験を得た。これらの学びは今後の学業のみならず、将来国際的な場で活動する上でも大きな糧になると考えている。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

本留学で培った語学力や主体性、異文化理解の姿勢は、今後の学校生活において積極的に活かしていきたいと考えている。授業ではこれまで以上に発言や意見交換に参加し、自ら学びを深める姿勢を大切にしたい。また、論文の要約やプレゼンテーションを通して身につけた情報整理力や表現力を活用し、専門科目の学習にも主体的に取り組みたいと考えている。さらに、多国籍の学生との交流から得た柔軟な思考力や協働する姿勢を、グループワークや課外活動において発揮したい。異なる意見や価値観を尊重しながら議論を進める経験は、今後の学術的活動においても重要な基盤になると考えている。将来的には、国際的な環境で活躍できる人材となることを目標としており、本留学で得た実践的な英語運用能力や適応力を継続的に高めていきたい。そのためにも、日常的に英語に触れる機会を増やし、積極的に海外の情報や研究に目を向ける姿勢を維持したいと考えている。本留学で得た経験を一過性のものとせず、今後の学習や進路選択に結びつけ、自己成長を継続していく所存である。

４　今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと（400 字以上）

これから留学を目指す学生にとって最も重要なのは、完璧な語学力よりも積極的に挑戦する姿勢であると感じた。現地では自分の思い通りに伝えられない場面も多く経験するが、その失敗を恐れずに行動することが成長につながる。間違いを気にせず会話に参加し、自ら話しかけることで、実践的な英語力は大きく向上する。また、異文化環境では日本と異なる価値観や生活習慣に戸惑うこともあるが、それらを否定するのではなく受け入れる柔軟な姿勢が重要である。多様な背景を持つ人々と関わることで、自身の視野が広がり、新たな気づきを得ることができる。さらに、授業外の時間を有効活用し、友人との交流や地域活動に積極的に参加することで、教室では得られない学びを経験できる。留学は語学習得だけでなく、人間的成長の機会でもある。困難な状況に直面した際も主体的に考え行動することで、自立心や適応力が養われる。限られた留学期間を最大限に活用するためには、明確な目標を持ち、常に学ぶ姿勢を忘れないことが大切である。これから留学に挑戦する学生には、一つ一つの経験を大切にし、積極的に行動することを強く勧めたい。

以　上

長 期 留 学 成 果 報 告 書

留学先国及び留学先大学：　北京師範大学（中国）

留学期間：　2025 年 2 月 ～　2026 年 1 月

1　留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400 字以上）

留学している間の授業では、ただ言語を学ぶだけでなく、たくさんのことを学びました。言語を学ぶことは一番大事で内容もすごく細かく言葉の細かいニュアンスや単語の微妙な違い、またネイティブの先生から教わるので細かい発音の違いをしっかり正してくれました。また、授業の中では中国語でディスカッションを行ったり、討論を行ったりと生きた中国語をたくさん学べました。その他に報刊の授業では、ニュースなど教科書に載っている記事の内容を要約して自分の意見を考えたり、気になる内容について調べて、それについてパワーポイントを作り、自分の意見やその内容について自分で疑問に思ったことをまとめ、クラスの子たちに意見を聞いてみるといった内容の授業もありました。常に誰かと会話や意見交換をしながら授業をすることが本当に多かったです。どの授業でも必ずわからない人が理解するまで何度も解説して教えてくれるので、とても安心して授業に参加できます。授業中には wechat を使用して資料を受け取ったり、宿題を提出したりしていました。

2　留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

寮に必ず入るので常に誰かといる印象でした。どこに行くにも友達と一緒に行動を共にしていました。なるべく現地にいる人と少しでも会話をするようにしていました。平日は基本的に授業や課題があり、外に出ることはできませんでしたが、食堂や買い物は毎日行くのでそこでスーパーの店員さんや食堂のスタッフの方々とコミュニケーションをとるようにしていました。時期的にも日本と中国の関係はよくないと言われていましたが、話す人たちは私が日本人だと知るとむしろ好意的に会話をしてくれ関係の悪さなどは気にならないほど、気さくに話してくださいました。基本的に寮生活なので、日本にいる時よりも人と関わる機会がとにかく多かったです。また、ごみの回収以外は自分のことは自分でやらなければいけないので、身の回りで必要なものを早めに用意しておくことが大切でした。しかし、中国では通販やデリバリーがとても盛んで、必要なものは基本的にすぐに手に入るので、生活で大きな困りごとなどは特にありませんでした。簡単なものはデリバリーでも手に入れられました。

3　留学を振り返って

（1）留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

留学前は不安が大きかったので、一年という長い期間の留学を最後までしっかりやり切れるのか、という不安が本当に大きかったです。しかし、実際に留学に行ってみて、最初のころはまだ知り合いもおらず、何をすればいいかもわからない状況だったり、クラスでも他の子たちは中国語が通じなくても英語があるから会話ができていたりで少し孤立気味でしたが、中国語で勇気を出して話しかけたらとても気さくに接してくれて、すぐに不安はなくなりました。留学前は勉強だけをとにかく頑張ろうとしていましたが、それだけでは留学に参加した意味がないと思い、たくさんのことに挑戦できた一年でした。留学前は安定を望んで挑戦することはほとんどありませんでしたが、イベントや自分以外の外国人と交流をすることで様々な経験を積むことができたと思っています。挑戦することで知らないものが見えたり、人との交流でその人のことを知れたり、特に誰かと交流することで会話をたくさんするので、その中で語学力の向上や新しいつながりを自分で開いていけて本当にたくさんの挑戦してみてよかったと思います。

（2）（1）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

留学を通じてたくさんの人と関わりを持ち、そのおかげで築けたことが本当にいっぱいあります。異なる文化や価値観、考え方の方たちがいて、その人たちと交流する中で自分とは違う意見や考え方に触れ、それを受け入れる大切さを学びました。そんな経験は自分にとって、とても貴重で素晴らしいものなので、留学で学んだことや知ったことを自分の生活に積極的に取り入れていきたいと思います。特に、何事も挑戦していくということはとても大切にしていきたいと思っていて、自分のできる範囲でやれることをたくさんやっていきたいと思っています。挑戦するということは、決して中国の中だけでなく今いる場所でもこれからもできることなので、自分のやりたいと思ったことや興味のあるものは積極的に挑戦し続けて、自分の可能性を広げていきたいと思います。その過程で失敗することもあると思いますが、それも自分の成長につながると信じ、挑戦することは諦めずにやっていきたいと思います。

4　今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと（400 字以上）

留学をしたら本当にたくさんのことを経験する機会が何度もあるので、それを逃さないようにしてほしいなと思います。挑戦することはとても勇気がいることだし、なかなか踏み込めないことではあるかもしれませんが、それでもせっかくの留学という機会の中で、普段はできない経験をせずに終わらせてしまうというのは、とてももったいないことだと思います。全部をやることは難しいし、できないことややりたくないこともあるかと思いますが、少しでも気になることがあるのであれば、留学の中でだけでも経験してみることがいいのではと思っています。それから、留学をするうえでの事前準備はすごく大事で、これから何があるかやどんなことがあるのか、何が必要なのかということは必ず事前に確認して、必要なものは用意して万全の準備をして留学に行くことをお勧めします。中国は通販やデリバリーなどが発達していて、なんでもそろえやすいですが慣れるまでに時間がかかったりすると思うので、必要なものは必ずしっかり準備して留学に行ってほしいなと思います。

以　上

長 期 留 学 成 果 報 告 書

留学先国及び留学先大学：　北京師範大学（中国）

留学期間：　2025 年 9 月 ～ 2026 年 2 月

1　留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400 字以上）

北京師範大学では学生のレベル分けごとのクラスがあり、そのクラスごとに授業形態も異なってきます。私の 102 クラスでは主に読写、聴力、報刊、会話の四つの授業がありました。特に読写の先生はクラスの担任にもあたるので、顔を合わす機会が多いと思います。この授業では、教科書を正しく読み単語を覚えることが重要になっていきます。たまに小テストとして単語を聞いて書きだすのもあるので、その時はテスト前に予習をしっかりとして臨む必要がありました。聴力のテストでは言葉のとおり、中国語を聞き取ることが大事になっていきます。授業前の予習がとても大事になるので、私は毎回の授業の予習をお勧めします。報刊の授業では、分厚い教科書に書いてあるニュースを読みます。先生によりますが、授業に反応しないと怒られることもあります。最後は会話の授業です。授業形態は読む授業と変わりはそんなにありませんが、テストの形式が変わってきます。テストでは先生と一対一で授業で習ったエピソードについて詳しく聞かれたりします。

2　留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

私は学校内の寮に滞在することができたので、特に難なく生活をすることができました。学校内にはスーパーマーケットや果物屋さん、食堂もたくさんあるし、密雪などの一般の飲食店も豊富だし、外卖したときに頼んだものを置いてくれる外卖柜も学校内のところどころにあって、すぐに受け取りが可能なのでとても便利です。私が住んでいた励耘学院の近くには留学生食堂があったので、よくそこの麻辣烫を食べていました。家で食べたいときや、みんなで分けて食べたいときは、食堂内のほとんどのお店であれば持ち帰りができるのも魅力の一つだと思います。何か欲しいものがあれば淘宝で買うこともできるし、同じ寮の人と仲良くなっておけば、物の貸し借りもすることができます。また、私が滞在中に友達にバイクを持っている人がいて、よく乗らせてもらっていました。中国でバイクを持っていることはとても便利だと思ったので、一年留学の人ならバイクを買ってもいいのではないかなと思いました。

3　留学を振り返って

（1）留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

留学を通して、一番の成長は耳が少し中国語に慣れたことだと思います。最初、授業を受け始めたときは、中国語だけでなかなか聞き取ることが難しく感じました。しかし、時間が経つにつれて聞き取れるようになっていきました。留学前は中国語がある程度読めて、多少話せれば留学生活はうまくいくかなと思っていましたが、そんなに甘いものではないと気づかされました。ただ、中国語を間違えることを恐れて全く使わなくなるのではなく、文法が違ってても、相手に伝える気持ちがあれば、クラスメイトとは会話ができると思います。先生なども聞き取ろうとしてくれるので、授業中はより積極的に話すことも大事だと思いました。ただ、私は留学前にもっと中国語の単語を入れたり、ＨＳＫを受験して資格を持っておくなどしておけば、より中国語を強化できる留学になったのではないかなと少し後悔はあります。留学に行く人は中国語の資格を一つでも上の級をとるとか、中国語のドラマを見て耳を慣らしておくとか、中国語に触れる機会を日本にいる時から作ることが必要だと感じました。

（2）（1）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

私は半年という短い期間しか中国に留学することができなかったので、自分が将来就職してお金がたまれば、また留学をしてみたいと考えています。実際に北京師範大学で出会った日本人は社会人の方も多く、自分の価値観を広げるきっかけにもなりました。もしこの先日本だけで生活をして、中国語に触れる機会がなくなってしまえば、単語も忘れてしまうし、今まで積み上げてきたものが無駄になってしまうと思います。日本にいても中国語を学ぶ機会を作ることはできるので、日本にいる中国人と交流する機会を作ったり、仕事で中国語を使う職場に行ったりしたいです。留学に行って、事前にもっと勉強すればよかったと後悔している分、日本に帰ってからより中国語を自主的に勉強する機会は増えました。旅行でも中国に行くことは増えると思うので、その際に実際に使えるよう語彙を増やして、資格も取って中国語学習に励みたいと思います。

4　今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと（400 字以上）

留学は中国語の勉強だけに集中してしまうのではなく、人との関わりや、外に出て中国でしか味わえない雰囲気などを楽しむことも大事だと思います。私の留学した北京師範大学はとても立地がよく、近くには観光地もあるし、世界遺産もあります。バーなどもたくさんあるので、外国の友達とよく行くこともありました。日本人だけで飲むのと他の国の子も入れて飲むのとでは、飲むお酒だったり飲み方だったりが変わってくるので国際交流として仲良くなれる方法の一つだと思います。私はこの留学期間内で中国語をより学べただけでなく、同じ寮内、学校で一緒に課題に励み、一緒にお酒を飲んだり、日本料理が恋しくなったら日本食を作ってご飯パーティーするなどかけがえのない仲間とも出会えました。留学は自分の人生の中でやってよかったランキングトップになるほど私にとってはいい経験です。

以　上

長 期 留 学 成 果 報 告 書

留学先国及び留学先大学： 復旦大学（中国）

留学期間：　　2025 年 2 月　～　2026 年 1 月

1　留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400 字以上）

　私は中国留学中、主に中国語の読み書き、文法、そして作文の授業を中心に学習しました。授業では教科書の本文を精読し、新出単語や文法事項を丁寧に確認したうえで例文を作り理解を深めました。最初に行われるクラス分けのテストによってレベル分けがされるため、簡単すぎず、しかし、より深く学び、自分の弱点を明確に把握することができました。

　また、作文の授業にも力を入れました。各単元のキーワードをもとに物語を作成したり、自分の意見を論理的にまとめたりする課題が出されました。私は文章構成や表現力を意識して、何度も担任の先生と添削を行いました。その結果、自分で文章を作成し、発表するスピーチコンテストに出場する機会をいただき、２等賞を獲得しました。この経験を通して自分の中国語が実際に評価されたことに大きな自信を持つことができました。留学を通して、単に知識を身に着けるだけではなく、実際に使える中国語を身につけることの重要性を学びました。

2　留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

　留学中は授業だけではなく、課題としてたびたび現地学生へ中国語でインタビューするということがありました。各章のキーワードに関連したテーマについて、現地学生に直接質問し、その内容をまとめ、自分でまとめたことをインタビューの録音とともにまとめたものを自分の言葉で説明し、録音で提出するという内容の課題です。最初は緊張しましたが、食堂などで積極的に話しかけることで、実践的な会話力を身につけることができました。教科書では学べない自然な表現や若者言葉にも触れることができ、大変貴重な経験となりました。

　また、旅行した際にはホテルのチェックインや交通機関の利用など、日常生活の様々な場面で中国語を使う機会がありました。方言などで言葉が聞き取れず苦労することもありましたが、自分の言葉で伝えようと努力する中で、実践的なコミュニケーション能力が大きく向上したと感じています。これらの経験を通して、語学は教室の中だけでなく、実際の生活の中で使ってこそ本当に身につくものであると感じました。

3　留学を振り返って

（1）留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

中国留学を振り返ると、語学力の向上だけではなく、自分自身の成長を強く実感できる貴重な経験であったと感じています。留学当初は不安が大きく、上手くやっていけるか心配でした。授業についていけるのか、自分の意見を上手く伝えられるか、会話を聞き取れるか等々、行く前まではもはや行きたくないという感情もありました。しかし、実際に行くと、もう後戻りはできないという気持ちで挑戦し勉強に励みました。

作文の発表や現地学生へのインタビューなど、人前で中国語を使う経験を重ねる中で、次第に自信がついてきました。また、異なる文化や価値観に触れることで、自分の考え方の幅も広がりました。日本では当たり前だと思っていたことが、海外では必ずしもそうではないと知り、多様な視点を持つことの大切さを学びました。

この留学経験は、語学力の向上以上に、自ら挑戦し続ける姿勢と柔軟な思考力を身につける機会であったと深く感じています。

（2）（1）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

留学で身につけた中国語能力と実践的なコミュニケーション力は、今後の学生生活において大きな強みになると考えています。授業で培った読み書きや作文の力をさらに伸ばし、より高度な内容にも対応できる語学力を目指して継続的に学習を続けたいと思います。また、インタビューや現地での生活を通して学んだ積極性を活かし、日本でも多様な人と関わる機会を大切にしたいと考えています。

将来的には人と密接に関わる分野で活躍したいと考えており、語学だけでなく文化や社会についての理解も深めていきたいです。「自ら行動する力」と「異文化を理解する姿勢」を忘れず、今後の学びや将来の進路選択に活かしていきたいと思います。

4　今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと（400 字以上）

ぜひ「失敗を恐れずに積極的に話す」ことを大切にしてほしいと思います。留学前は、文法や単語を完璧に覚えてから話そうとついつい考えてしまいがちですが、実際は完璧に話すことよりも伝えようとする姿勢のほうがはるかに重要です。たとえ文法がごちゃごちゃだとしても相手は読み取ろうと真剣に聞いてくれ、訂正をしてくれたりもします。その積み重ねが自信につながります。

また、授業時間以外の時間も有効に使うことが大切です。食堂や寮、買い物や旅行など、日常生活のあらゆる場面が海外では学習の機会になると考えています。自分からタクシーの運転手に話しかけてみたり、逆に話しかけられたら答えたり、教科書では絶対に身につけることができない生きた表現が身につくと思います。

以　上

長 期 留 学 成 果 報 告 書

留学先国及び留学先大学：　浙江大学（中国）

留学期間：　2025 年 2 月　～　2026 年 1 月

1　留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400 字以上）

私が留学した際、入学前のテストの結果により３班に所属していましたが、クラスメイト達の英語と中国語のコミュニケーションに思うように入れず、一週間ほどで２班に行くことに決めました。２班の授業では精読、口語、听力の３科目でした。２班での授業は中国語での説明に加え、英語で説明してくれる場合もありました。また、日本人の私は漢字が書けるのである程度テストなどでの漢字ミスが少なく、周りから羨ましがられることが多くあり、漢字の難しさも授業内で初めて実感することができました。

夏休みの間はなるべく中国に残り、現地を満喫しようと考え、図書館での勉強だけでなくサマーキャンプで日中通訳業務を行うなどして学力を上げ、後期は飛び級のテストに参加し、４班で勉学に励みました。４班の授業は４科目で、精読、口語、閲読、写作でした。すべての教科が基本的に中国語で、２班の時とは周りのレベルも高いことを実感し、自分の学習のモチベーションに繋がりました。また、前期と後期で必修プラス１教科の選択授業が取れる仕組みになっていましたが、生徒数が多い割に選択できる科目数が少なく、枠が一瞬で埋まってしまった為、取ることができませんでした。

テストが各学期に２回あり、全力で挑みました。結果どの教科もよい点数を取ることができ、前期と後期の成績もよい点数を取ることができました。特に後期の写作のテストと成績では９９点を獲得し、大満足な点数を取れました。やはり、先生が中国人で、更に中国語を使わざるを得ない環境にいることで人は大きく成長することができると強く感じました。

2　留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

中国の発展には凄く驚きました。地下鉄内での荷物検査や、全てスマホでの決済など、正直、日本よりも進んでいるな、と感じることが多く、自分自身の視野が広がる経験になり良かったと思っています。更に、中国以外の外国の友達もたくさん作ることができ、英語の勉強にもなりました。他にも世界各国からの留学生がいたので、様々な文化を学ぶこともできました。前期のクラスでのパーティーでは自分の国の飲食物を持ち込み、先生も含めパーティーをしました。アラブの家庭料理の代表的なサラダやティー、ロシアのお菓子やモンゴルのお茶、インドネシアのお菓子などなど様々な国の食べ物が集まり、新しい味にも出会うことができ、とても貴重な経験だったと感じます。

また、私は中国にいる際、出会った人から「あなたは何人なの？」と聞かれることが多くありました。その時私は毎回「何人だと思うか当ててみて！」という風に返していました。なぜだかわかりませんが、私は９０％以上の確率で「タイ人だと思う」と言われてきました。韓国人に見えると言われたことも数回ありますが、純粋な日本人の私がなぜタイ人と言われていたのか未だに謎で、面白い経験でした。更に、日本人と一緒にいるときでさえ、私だけタイ人だと思う、と言われたこともあり、謎は深まるばかりです…。

さらに、私は中国の飲料文化に強く惹かれました。何店舗も連なっていたり、チェーン店が多いなど中国で町中に普及されていることが分かりました。更に一杯１２０円～くらいと値段も安く、更に味もおいしいです。中でも私は CHAGEE、古茗という２店舗の飲料店がお気に入りでよく頼んでいました。そして、中国の飲料店の一番の魅力は余分なものが入っていない事です。私は元々甘いものが好きではなく、更に添加物などの味がなんとなく苦手で、日本のドリンクがあまり得意ではありません。しかし、中国は砂糖の甘さからすべてをカスタムでき、茶葉、ミルク、砂糖、など余分なものは何も入っていません。日本のように添加物などもないことで、私も安心して飲むことができ、日本にも中国の飲料文化が浸透して欲しいと切実に思っています。

3　留学を振り返って

（1）留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

一年間中国留学をして学んだことや感じたことはたくさんありましたが、現地の実際の様子を自分の目と肌で体験できたことが一番良かったと感じました。中国は私が想像していたよりもはるかに発展していて、中国人もとても親切だと留学に行って初めて知る事が出来ました。日本にいるときは、正直あまり中国に対してのイメージが良くなく、周りも私の留学をとても心配していました。しかし、自分が心配していたほど怖い場所ではなく、困ったら助けてくれる優しい中国人ばかりでした。中国に行き、自分の肌で実際に感じることで中国へのイメージが変わったので、留学して本当によかったと思っています。また、この日中のお互いのイメージについて、仲良くなった中国人何人かに聞いてみたことがあります。「お互いの政治の関係は正直良好とは言えないけど、中国人は日本や日本人のことをどう思っているの」このような質問を何人かにしてみました。いい答えが返ってくるとは限らないので、恐る恐る聞いてみましたが、驚くことにほとんどが同じような回答でした。「中国と日本の関係が悪いのは政治の話であって、我々市民は関係ない。もちろん日本を得意としない人はいるけど、全員がそうではないよ」このような答えでした。私は勝手なイメージから「だから日本に行きたくない、日本人は好きではない」という答えがあるものだと考えていたので、政治と市民の考えを勝手に一緒にしてしまった自分が恥ずかしくなったことを今でも覚えています。更に、日本人と聞いて知っている日本語を話してくれる方や、日本にいつか行きたいからおすすめの場所教えてほしいなど、日本に対して友好な人が意外にも多いことに驚きました。

（2）（1）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

４年生では、留学中に出会った友達とのコミュニケーションは続けつつ、明海大学には中国からの留学生が多くいるので、交流ができたらいいなと考えています。また、アルバイトにおいても浦安だと中国語圏からのお客様も多くいるので、お客様を助けるだけでなく、中国語を使ってコミュニケーションを取りながら勉強のモチベーションに繋げ、HSK６級をいつかの目標に勉強していきたいと考えています。

また、中国の魅力を日本人の周りに広めていくことが私の使命だと思っています。まだまだ日本人の中には中国へのイメージが良くないと感じる人も多くいると思います。私は周りに中国での経験などを話すことで、少しでもお互いのイメージが良くなってほしい、そして少しでも日中友好につながってほしいと切実に思っています。

今回の留学を経て、行動力と挑戦力に磨きがかかっただけではなく、多文化理解や価値観の違いなどを学ぶことができ、視野が広がる経験になりました。今後は物事を新たな視点から考え、就職後も提案などに役立てたいと思っています。

4　今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の留学を通してやはり、「何事も挑戦あるのみ」だと強く感じました。留学に行こうと決めるところから挑戦だと思いますし、留学後も自分の選択肢はたくさんあると思います。私は挑戦と行動力が元々取り柄だと自負していますが、中国で更に磨きがかかったと思っています。飛び級や日中通訳業務、現地サマーキャンプへの参加、本館でのダンスサークルへのオーディション参加、その後の年末イベント参加など様々な挑戦から得たものや考えたことが多くありました。日本人でも留学をしている人は数多くいましたが、その短い一年間をどう過ごすのか、どう自分のものにしていくのかは自分次第だと思います。異国の地で挑戦することは、なかなか簡単ではないことだと思いますが、挑戦しただけでも大きな成長に繋がると思いますし、大切な思い出にもなるはずです。私もこの一年間を無駄にせずたくさんの経験ができたので留学に行って本当に良かったと思っています。何事も挑戦です！自分のやりたいことは恐れずに何でも挑戦してみてください！！限られた短い時間で有意義かつ素敵な経験を！

以　上

長 期 留 学 成 果 報 告 書

留学先国及び留学先大学：　東呉大学（台湾）

留学期間：　2025 年 9 月　～　2026 年 2 月

1　留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400 字以上）

私は今回の半年間の台湾留学を通じて、多くのことを学ぶことができた。単に授業内での語学スキルの向上だけではなく、台湾の友人との交流や言語交換を通じて、教科書にはない「生きた中国語」に触れることができた。その中には外来語や若者言葉も多く含まれており、中国語学習への意欲向上に大きく繋がった。私のクラスの授業では日本人 2 名、インドネシア人 1 名で構成されており、授業内の説明からレポート発表まで一貫して繁体字を用いて進行していた。そのため台湾に訪れたばかりの頃、学習面で苦労した場面も多々あった。渡航前は「普通話」を基に学習していたため、留学当初は繁体字の習得や発音の違いに適応するのに時間を要した。しかし、授業内や自学自習の時間を用いて繁体字の読み書きを地道に練習し、周囲の台湾の友人や先生の発音を徹底して模倣した結果、一ヶ月が経つ頃には現地の中国語に適応することができた。この過程から、言語習得において周囲の表現を真似ることが、スキル向上に直結することを身をもって実感した。また、課外活動の一環で中華民国総統府や故宮博物院を参観し、歴史的観点からも台湾への理解を深めることができた。報告会ではクラスメイトの多様な視点に触れ、自身の見聞を広げる貴重な機会となった。さらに、寮生活を通じて様々な国籍の友人と交流することで多様な価値観に触れ、文化の相互理解と共存意識を高めることができた。

2　留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

私は東呉大学華語センターに隣接する「楓雅樓」の二人部屋で生活した。ルームメイトは韓国人学生で、同じアジア圏ということもあり、文化の違いによるトラブルもなく有意義な共同生活を送ることができた。また、寮の一階が教室であったため通学が非常に便利であり、学習に専念できる非常に優れた環境だと感じた。本校舎の一階にはセブンイレブンやマクドナルドがあり、ちょっとした買い物や食事も大変便利だった。食事は、春節期間を除いて基本的に学生食堂で友人と共にした。週末にはバスで市内へ繰り出し、士林夜市などのローカルな飲食店で台湾の美食を体験した。店の方や他のお客さんと積極的にコミュニケーションを図る中で、台湾の方々の温かな人情味に触れることができた。

特に印象深かったのは春節の時期である。寮が閉鎖される期間の滞在先に悩んでいたところ、台湾の友人が家族との年越しに招待してくれた。滞在期間中、外国人である私を本当の家族のように温かく迎え入れてくれた。友人一家と共に春節を過ごし、伝統的な食事や習慣を共有した経験は、私の台湾生活において最も貴重で忘れられない思い出となった。

3　留学を振り返って

（1）留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

今回の留学を通じて、特に私の物事への消極的な考え方が払拭された。以前の私は、学内外の活動に対して消極的な傾向があった。しかし、日本を出て環境を変えても自分自身が変わらなければ意味がないと考え、意識的に様々な活動へ参加した 。多様な価値観を持つ友人と出会い、対話を重ねることで、自分を縛っていた固定概念が払拭された。多角的な視点を持てるようになったことで、物事の捉え方が以前よりもポジティブに変化したと確信している。

また、学習面では「失敗を恐れずに発信すること」の重要性を学んだ。以前は何事にも慎重すぎるあまり、一歩を踏み出すのを躊躇することが多かった。これは中国語学習にも影響しており、時折失敗を恐れ一歩を踏み出せずにいた。しかし、「失敗は恥ではなく、次の成功へのステップである」という先生の言葉を支えに主体的な発言を心がけた結果、スピーキング能力が大幅に向上した。失敗を恐れずに行動する姿勢は、言語学習以外の場面でも活かされており、精神面での大きな成長を実感している。この半年間で得た自信は、私にとって何物にも代えがたい財産となった。

（2）（1）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今後は台湾での経験を糧に、新たな物事へ主体的に挑戦し続けたい。具体的には、日本帰国後も学内外の活動や地域交流に積極的に携わることで、自身の見識をさらに広げていく所存である。台湾で培った「挑戦を恐れない心」を自分の軸とし、日々の生活に臨むことが重要だと考えている。特に、台湾や中国の方々との交流の場には積極的に参加し、語学力の研鑽のみならず、互いの文化背景への理解を深めることに重点を置いていきたい。

また、将来については中国語を活かせる職業に就きたいと考えている。現時点では具体的な職種や方向性を模索している段階であるが、時間をかけて自身の適性を見極め、将来は日本と台湾の架け橋になれるような存在を目指したい。そのためにも、まずは残りの学生生活で必要な資格取得や専門知識の習得を目標に掲げ、日々の学習を疎かにせず邁進していく。台湾で得た自信と経験を基に、この一年を自分自身のキャリア形成における重要な飛躍の年にしたい。

4　今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと（400 字以上）

留学は語学の上達だけでなく、精神的な自立と成長を促してくれる絶好の機会である。現地で生活し、自身の目で世界を見ることは、視野を広げるだけでなく、今後の人生における強固な軸となるだろう。少しでも興味があるならば、挑戦する価値は十分にある。台湾は日本企業の進出も多く生活が便利な上、親日的な方が多いため、日本人にとって非常に過ごしやすい環境である。物価に関しては、台北市内でもローカルな飲食店や夜市を利用すれば日本より安価に食事を楽しめる。ただし、日用品や日本製品は輸入品のため価格が 1.5 倍から 2 倍になることが多いので、こだわりがある物は持参を推奨する。また、私が留学した東呉大学では、留学生向けの歓迎会や言語交換イベントが頻繁に開催されている。こうした場に気後れせず参加することで、多国籍な友人ができ、学習意欲もさらに高まるはずだ。たとえ最初は言葉が通じなくても、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢こそが、充実した留学生活を送るための鍵となるだろう。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：ウーロンゴン大学（オーストラリア）
研修期間：　　2026 年 2 月 14 日（土）～　2026 年 3 月 2 日（月）
１　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） ウーロンゴン大学では主に English class へ参加し、グループワークを通して英語を学んだ。先生が「何について知りたいか」を私たちにヒアリングし、次の授業ではそのテーマに沿って授業を行った。オーストラリアについてクイズ形式で学んだり、体を動かすアクティビティが多かったため、英語に自信がなかったものの、楽しみながら授業へ参加することができた。また、ＩＴの活用法や音楽を用いた授業も行った。実際に自分が教壇に立った際にどのように活かせるか考えながら、授業に取り組むことができた。２週目は、他の大学の方と一緒に授業を受けた。オーストラリアの動物についての動画を見ながら、プリントに書かれた問題を解いていった。その他、シンビオ動物園へ足を運ぶ機会があったため、クラスの前で印象的な動物について説明をするアクティビティもあった。リスニング・ライティング・スピーキング・リーディングの 4 技能を網羅した内容であった。現地の高校で日本語教育を実際に見学する機会もあり、日本との違いを比較したり、先生に様々なお話を聞くこともできた。非常に有意義な時間となった。
２　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 特に印象的だったのは、生活様式である。今回はホームステイという形で滞在していたため、実際に現地の方と同じ生活を送っていた。そんな中で、2 階建ての家が少ないこと、ドアを少し開けていることや、湯船に浸からずシャワーのみで済ませること、食洗器が主流なことなど、多くの日本との違いがあった。最初は戸惑うこともあったが、周りを見てマネしながら少しずつ慣れていった。ホストファミリーも優しい方で、どんな時も気さくに話しかけてくださった。言語の面で、話したいのに話せないというもどかしさもあったが、わかりやすい言葉に変えてくれたり、言葉が出るまで待ってくれたり、私が言いたそうな言葉を提案してくれたりと、たくさんサポートしてくださった。また、食生活も印象的で、多国籍な国のため様々な料理があった。基本的にはハンバーガーやフィッシュアンドチップスなどが多かった。日本食も日本のものとは違っていて、比較しながら食べることができた面白い経験だった。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

オーストラリアでの研修を通して、語学力やコミュニケーション能力の面で自分の成長を感じることができた。研修前は、自分の英語が相手に伝わらないのではないかという不安が強く、積極的に話すことに躊躇していた部分もあった。しかし、ホームステイ先や大学での交流を通して、完璧な英語でなくても伝えようとする姿勢が大切であることを実感し、少しずつ自分から話しかけることができるようになった。また、英語環境の中で生活することで、母語である日本語が安心して自分の気持ちを表現できる言語であることにも改めて気づいた。普段は意識していなかった母語の大切さや心地よさを感じたことは、大きな学びであった。さらに、異文化の中で生活することで、文化や価値観の違いを実際に体験し、異文化理解を深めることができた。同時に、語学教育の授業や活動を通して、言語を学ぶ際にはコミュニケーションや体験を通した学びが重要であるという言語学習の知識も得ることができた。この研修を通して得た経験は、今後の学びや将来にも活かしていきたいと考えている。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回のオーストラリア研修で得た学びは、今後の学校生活の中で積極的に活かしていきたいと考えている。特に、留学生との関わり方においては、今回の経験が大きく役立つと感じている。研修を通して、言語が異なる環境で生活することの難しさや不安を実際に体験したことで、母語ではない言語でコミュニケーションを取る大変さを実感した。そのため、今後大学で留学生と関わる際には、相手の立場に立ち、安心して話すことができるような関わり方を意識したいと考えている。また、積極的に声をかけたり、相手の話を丁寧に聞いたりすることで、互いに理解を深められる関係を築いていきたい。さらに、今後参加を予定しているウクライナ日本語教室においても、この研修で学んだ異文化理解や言語学習の視点を活かしていきたい。日本語を学ぶ学習者の立場に寄り添いながら、分かりやすく伝える工夫や、安心して学べる環境づくりを意識し、学習者にとって有意義な時間となるよう努めていきたい。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）
研修期間：　　2025 年 08 月 24 日（日）～　2025 年 09 月 14 日（日）
1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 私はハワイ大学マノア校で 3 週間の NICE プログラムに参加し、Advanced Class に配属され、Kaan 先生の授業を受けました。授業は毎週異なるテーマで構成され、学習と実践を繰り返すことで多面的に理解を深める形式でした。第 1 週目のテーマは「ハワイ」で、観光地や文化についてインターネットではなく、現地の学生へのインタビューや交流イベント「Interchange」を通じて情報を収集し、プレゼンを行いました。第 2 週目は「ハワイの歴史」を学び、Off-Campus Educational Activity ではワイキキを歩きながら歴史的な人物像や地名の由来を調査しました。教室では、歴代の王や女王、さらにピジン語について学び、発表を行いました。最終週の Off-Campus Educational Activity では Botanical Garden に訪れ、ハワイ固有の植物やその活用方法についてガイドのションさんから学びました。植物は古代の生活に欠かせない資源であり、電気やインターネットが失われた場合の生き方を考えるきっかけにもなりました。最終的には、3 週間の学びをまとめる Final Presentation を行い、修了証を受け取りました。この経験を通して、知識や英語力だけでなく、現地文化への理解や発信力を養うことができ、日本に帰国後は周囲にハワイの魅力を伝える役割を担いたいと考えています。
2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 授業では、調べ学習の際にインターネットを使用せず、現地学生へのインタビューを通じて情報を得ることが求められました。さらに、プログラム中には 5 回の Interchange という現地の学生と交流の時間があり、私はその機会を最大限に活用しました。課題に関連する質問だけでなく、その場で疑問に思ったことを積極的に投げかけることで、英会話を実践的に学ぶことができました。自ら交流の場を作ることは難しさを感じましたが、授業や Interchange を通して現地の学生と会話する機会が豊富にあったこと、そして彼らの思考や価値観に直接触れられたことは非常に印象的でした。 また、同じクラスには日本各地の大学から学生が参加しており、私はそのクラスメート達と共に学びながら時には授業後や休日に一緒に遊びに行ったり、新たに現地の友達を作る機会もありました。最初は知り合ったばかりで、お互いを徐々に知っていく段階でしたが、最終的には仲良くなり、共に忘れられない思い出を作ることができました。学校外の生活でも、レストランやショップでのやりとり、ホテルのフロントへの問い合わせなどを通して英語を実践でき、文化の違いを体験することができました。こうした交流や生活体験は日本では得がたく、異文化を受け入れ、自らの視野を広げる貴重な機会となりました。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

このハワイ研修を通して、私は英語力の向上だけでなく、現地の人々の価値観や考え方を学び、新たな観点を得ることができました。授業ではインタビューやプレゼンが繰り返され、自ら英語を話しに行く場面が多くありました。研修前は文化の違いや単語選択への不安から、ネイティブスピーカーとの会話では緊張してうまく話せないことが多くありました。しかし、現地の方々は私の間違いを受け入れてくださり、失敗を通して気づき、次の成長に繋げることができました。また、授業では日本との教育や文化の違いを実感する場面も多くありました。例えば、発表者に対してクラス全員が傾聴し、先生が毎回感謝の言葉を伝えることで、生徒のモチベーションが高まり、学びの質が向上していきました。特に印象的だったことは、毎回のプレゼンの後、質問や先生からのコメントをいただく時間があったのですが、その際、クラスメートがさまざまな質問をしてくれた時、私のプレゼンに興味を持ち、傾聴してくれたことを感じました。この経験を通して、英語の実践力だけでなく、異文化理解力や積極的に学ぶ姿勢も身につけることができ、今後の学習や将来のキャリアに活かせる大きな財産となりました。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の海外研修で培った英語力や異文化理解を、今後の学生生活や将来に積極的に活かしていきたいと考えています。まず、授業や英会話の場では、現地で学んだ自然な表現や単語の使い方を意識して取り入れ、様々な場で応用していこうと思います。また、ハワイ大学での学びを通して、調べ物をするときはインターネット上の情報に頼るだけでなく、さまざまな意見や価値観に触れることの重要性を実感しました。この姿勢を学生生活にも取り入れし、課題やディスカッションの際には幅広い視点を持つよう努めたいです。さらに、私は人前で発表することに苦手意識を持っていましたが、繰り返しのプレゼン経験を通して、自分の意見を伝えることの面白さや必要性に気づくことができました。今後は授業内外での発表の機会を積極的に活用し、表現力と自信を養っていきたいと考えています。将来的には、国際的な環境で仕事をすることを目指しており、今回の経験で得た積極性や異文化理解は、社会で他者と協力して物事を進める際に大きな強みになると考えています。さらに、クラスメートや現地の学生と過ごした時間はかけがえのない思い出となったので、日本の学生にも同じような体験をぜひしてほしいと感じました。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等： カンタベリークライストチャーチ大学（イギリス）
研修期間： 2025 年 8 月 23 日（土）～ 2025 年 9 月 7 日（日）
1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 授業は、主に座学ではなくディスカッションやグループワークで進行し、内容としては英語の基本的な単語や文法を学習するものが多かった。2 週間で 5 名の現地の先生方の授業を受けたが、先生によって授業の進め方やスタイルが大きく異なっていた。紙に自由に服を着た人の絵を描いて、その絵の人物の服装について説明するための単語や文章を学んだり、様々な人の表情を描いて感情を表す形容詞について学ぶような自由で創造的なスタイルの授業や、カードに書かれた質問に従って話し合いをしたり、動画を観て動画に映っている人物の行動を表現する単語や文法を学ぶような中庸的な授業、未来を表す文法や受動態を、穴埋め問題や選択問題リスニング問題を解いて学ぶような、真面目な授業など、様々なスタイルの授業を受けた。全体の難易度としては優しかったが、その中でも、英語で英語の文法を学ぶことには難しさを感じた。「なぜ、文章がその形になるのか。」を英語で説明することが難しかった。最も楽しかった授業は、カードを見て、そこに書かれた単語を英語で説明しグループのメンバーに当ててもらい、他グループと速さを競うゲームだ。緊張感のある楽しさを感じながら、集中して取り組むことができた。
2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 寮では、同じフロアに一人一部屋割り当てられ、共用のキッチンをリビングルームのように使って過ごしていた。ご飯を作って一緒に食べたり会話をしたり、共同生活を楽しく送ることができた。 イギリスでの生活で最も印象に残っていることは、気持ちの良い気候だ。イギリスはあまり天気が良くない国だと言われている通り、一日のうちに大雨と快晴どちらも経験する日が多かった。空が情緒不安定ではあったが晴れの時に感じる幸せのほうが印象に残った。日本より空気が乾燥していて、晴れている日は汗をかかない程度に太陽の温かさを感じられる心地よい天気だった。 また、街を歩く人々や店員を見て、日本となんとなく似ている部分があると感じた。街を歩く若者のファッションが日本の若者と重なって見えた。女性のシンプルでタイトなトップスに、ルーズなズボ　ンの組み合わせや、古着をリメイクして作った洋服屋があったことからファッション流行のグローバル化を感じた。また、イギリスの全体的な雰囲気として自分と他人の間に一線を引いているような冷静さがあり、日本と似通っていると感じた。その中でも、フレンドリーに話しかけてくれる方もいた。2 週間で同じ紅茶屋に 4 回ほど訪れたのだが、親切な店主の方と顔見知りになり、最後にはカプチーノを振舞っていただいた。その方との別れが一番名残惜しかった。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

研修以前は、アメリカ英語とイギリス英語の違いについて、若干の相違であると考えていたのだが、授業や現地の方との会話を通して、顕著に分かる違いが存在することを実感した。多少の違いはあれど、リスニングにあまり影響はないと思っていたが、聞き慣れていないため脳に負荷がかかる感じがあり、事前に勉強しておけばよかったと後悔した。そういうこともあり郷に入っては郷に従うべきだと思い直し、店でのお会計で使えるような文章を調べた時にも、アメリカでは check、イギリスでは bill という単語を使うのが主流であることを知った。この経験を経て、他国に入国する前に基本的な会話フレーズについて調べたり言語について学ぶことは文化を尊重するために重要な一歩であると改めて感じた。

今回の研修でイギリスに渡り、人生で初めて外見や国籍によってマイノリティとして見られる感覚を味わった。街中や、電車の中、空港で顔をじっと見られたり、「Japanese」という単語が耳に入ることがあり、相手側の意図は不明ではあるが心狭く不安な気持ちになった。大学 2 年生の時に参加したハワイ留学の際は、ハワイは日本人が多く訪れる観光地であり歴史的なつながりが強いためそのような経験はなかったため、イギリスに行ったからこそ経験できる感覚であったと思う。日本では多数派である日本人として暮らしてきた自分にとって大きな気づきになった。

今回の留学メンバーは学年も異なり、元々知り合いではなかった人がほとんどだった中での半共同生活で、普段はあまり関わらないタイプの人と話すことで新たな考え方や価値観を知ることができた貴重な機会だった。私は自分自身のことを、人と長くいることがストレスになる気質であるとか、明るい性格の人とはあまり仲良くできないタイプだと思っていたのだが、今回の研修は人との時間を楽しむことができ、それが視野を広げることにつながったと感じているため、今までの様々な思い込みや認識を覆す良いきっかけになった。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の研修で、長時間のフライトや異国での生活を経験したことで、海外に行くことへのハードルが少し下がったと感じた。これまでは不安の方が大きかったが、実際に行ってみると新しい景色や人との出会いが楽しく、これからは海外旅行にも前向きに挑戦してみたいと思うようになった。

イギリスでは、現地の人に「こんにちは」や「ありがとう」と日本語で声をかけてもらえたのが嬉しく印象に残っている。たった一言でも、自分の言語で話しかけてもらえると安心できるし、相手が自分の文化に興味を持ってくれていると感じることができた。この経験から、自分が海外に行った時にも、現地の言葉を積極的に使うようにしたいと思った。英語圏以外の国にも行く機会があれば、その国の言語やマナーの基本を事前に調べておきたい。

また、今回の研修を通して感じたのは、「マイノリティ」とされる立場の人への配慮の必要性である。海外の人が日本に来たときと同じように、不安や緊張を抱えている人が身近にもいるかもしれないと思った。これは人種や国籍に限らず、宗教、ジェンダー、障がいなど、さまざまな面で当てはまる。そうした背景を考慮しながら、相手が安心して過ごせるような雰囲気をつくることを意識したい。

あいさつやちょっとした言葉でも、相手との距離が縮まるきっかけになると思うし、文化や価値観の違いを知ることは自分の視野を広げるチャンスでもある。これからは、自分と似たタイプの人とだけでなく、違う考え方を持つ人とも積極的に関わっていきたい。コミュニケーションの場で自分の話をするのが苦手で避けてきたが、仲良くなるために自分のこともオープンにしながら、相手の話にも耳を傾ける姿勢を大事にしていきたいと思う。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：シーキューユニバーシティ（オーストラリア）
研修期間：　2026 年 2 月 7 日（土）～　2026 年 2 月 28 日（土）
1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 派遣先の授業では、英語の発音やアクセントの練習だけでなく、オーストラリアの文化や社会についても幅広く学習した。授業の中ではミニプレゼンテーションを 3 回行い、人前で自信を持って英語を使って発表することができた。プレゼンテーションのテーマは、日本での SDGs の取り組み、オーストラリアの動物であるエリマキトカゲ、そしてオーストラリアのスポーツについてであった。スポーツについては AFL、ネットボール、クリケットなどを取り上げ、それぞれの特徴や人気の理由について調べて発表した。 また、英語の発音についても詳しく学んだ。授業ではアクセントの付け方や、a や ae など母音の発音の違いについて練習を行った。さらに、単語の中で強く発音する部分であるストレスワードと、弱く発音するアンストレスワードについて学び、英語のリズムを理解することの重要性を知ることができた。ストレスのルールを理解することで、より自然な英語の発音に近づくことができると感じた。 その他にも、オーストラリアで日常的に使われているスラングや、オーストラリアの先住民族であるアボリジニについても学んだ。言語だけでなく、その国の文化や歴史について理解を深めることで、英語をより多角的に学ぶことができたと感じている。
2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 今回の海外研修ではホームステイをしながら現地で生活を送った。私のホストファミリーは多文化を尊重する家庭であり、家の中で靴を脱ぐかどうかも個人の自由に任せられていた。また、理解できたか聞いてくれたり、困っていることがあればすぐに声をかけてくれるなど、とても温かく接してくれたことが印象に残っている。学校の先生も、私たちが理解しやすいようにゆっくり丁寧に発音してくれたため、英語を聞き取りやすい環境で学ぶことができた。 交通機関については、日本との違いを多く感じた。バスは手を挙げて合図をしないと止まらない場合があり、降りる場所もアナウンスが少ないため、Google マップを確認しながら移動しないとついていけなかった。また、電車はトンネルを通る際に車内の電気が一時的に消えることがあり、日本ではあまり見られない光景であり驚いた。一方で、電車やバス、フェリーは GO カードを利用することで 50 セントで乗ることができ、便利で国民にとってやさしい制度だと感じた。 食生活も日本とは異なり、私のホストファミリーは麺類やご飯をあまり食べず、パンを中心とした食事が多かった。朝食や昼食にはマフィンやサンドイッチが多く、夕食にはラザニアやタコスなどが出ることもあった。ランチボックスは日本よりも大きく、フルーツは皮付きのまま入っていることが多かった。また、多くの家庭で食洗機を使用していることにも驚いた。街を歩くと鳥やトカゲなどの動物をよく見かけ、自然が身近にある環境であることも印象的であった。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

今回の海外研修を通して、英語でコミュニケーションを取ることに対する考え方が大きく変化した。研修前は、自分の英語が相手にうまく伝わらないと感じたとき、すぐにスマートフォンで調べたり、先生に頼ったりしてしまうことが多かった。しかし研修中は、言葉がすぐに伝わらない場合でも、言い方を変えたり身振り手振りを使ったりして、自分の会話を続けようと努力するようになった。その結果、自分が思っていた以上に、現在の英語力でも十分にコミュニケーションが取れることに気付くことができた。

また、ホストファミリーや現地の人々は、私の英語力に関係なく、ゆっくり話してくれたり別の言い方で説明してくれたりするなど、とても親切に接してくれた。そのため安心して英語で会話をすることができ、人の優しさや思いやりを強く感じた。

さらに、オーストラリアでは独自のスラングが日常的に使われており、それらを会話の中で使うことで会話がより自然に続き、コミュニケーションが楽しくなることにも気付いた。また、私はこれまで主にアメリカ英語を学んできたため、オーストラリア英語の発音との違いに不安を感じていたが、実際には問題なく会話ができた。むしろ異なる発音やアクセントを知ることで、英語に対する理解をさらに深めることができたと感じている。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の海外研修を通して得た経験は、今後の学生生活や将来にも活かしていきたいと考えている。オーストラリアではさまざまな国から来た人々が生活しており、人によって発音やアクセントが大きく異なるため、最初は聞き取ることが難しいと感じることもあった。しかし、この経験を通して、アメリカ英語だけでなくイギリス英語など、さまざまな英語に触れることの大切さを実感した。今後は多様な英語に積極的に触れ、英語力をさらに高めていきたいと考えている。

また、これまで私は英語を学ぶ理由を「人とコミュニケーションを取ることが好きだから」という気持ちだけで考えていた。しかし今回の留学での経験を通して、その気持ちを将来の進路にもつなげていきたいと感じるようになった。ルームメイトとの会話の中で将来の夢について話した際、「あなたはプランナーが向いていると思う」と言われたことがあった。私は友人と出かける際に計画を立てたり、交通手段を調べたりすることが多く、その言葉によって自分の得意なことに気付くことができた。

今後の学校生活では、ネイティブの先生と話す際にすぐスマートフォンで調べるのではなく、まずは自分の知っている英語や身振り手振りを使って伝える努力をしていきたいと考えている。そして、今回の留学で得たコミュニケーション能力や異文化理解を、将来の進路選択にも活かしていきたい。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：北京語言大学（中国）

研修期間：　2025 年 8 月 3 日（日）～　2025 年 8 月 30 日（土）

１　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の北京語言大学での研修における授業では、主に中国語のライティング、スピーキング、リスニングの三つの技能を中心に学びました。授業の進め方としては、まず教科書に掲載されている本文を題材にし、それをもとに文法や語彙を確認したり、長文読解の練習を行ったりしました。本文のテーマに関連する作文課題や、簡単なスピーチ発表の機会も設けられており、総合的に言語運用能力を鍛えることができる内容となっていました。授業はすべて中国語で行われるため、先生が話している内容が理解できない場面も少なくありませんでした。その際には近くに座っているクラスメイトに聞いて確認したり、休み時間に友人同士で情報を共有したりすることが多く、仲間との協力も学習の大切な一部であると感じました。

また、授業を担当する先生は毎回異なっていましたが、同じレベルの別のクラスで授業内容に大きな差が出るということは特にありませんでした。全体的に授業のスタイルや進め方は統一されていたと思います。

一方で、明海大学での授業と比較して特に大きな違いがあると感じた点が二つあります。一つは授業中における発言や発表の機会の多さです。北京語言大学の授業では、ほぼ毎回必ず全員に対して発言が求められ、単に先生の話を聞くだけではなく、自分の考えを言葉にして伝える練習が繰り返されることで、実際に中国語を使う力が自然と鍛えられていったと思います。

もう一つの大きな違いは宿題の有無です。明海大学では宿題が課されることはあまり多くありませんが、北京語言大学では全ての授業で宿題が出されました。その内容は多岐にわたり、授業で学んだ内容の復習問題、作文の作成、さらには自分の声を録音して提出する練習などがありました。

総じて、北京語言大学での研修授業は、学生一人ひとりの積極的な参加を促し、授業外でも学習を続けさせる仕組みが整っている点が印象的でした。

２　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

私は北京語言大学で一カ月間滞在し、学生寮で生活しました。寮では毎日一度、ゴミの回収や床の清掃が行われるため、常に部屋を清潔に保つことができ、日本の学生寮と比べると少し快適に感じられました。食事については、朝は近くのコンビニで軽く済ませ、昼は学食で安くてボリュームのある学食でご飯を食べ、夜は友人と一緒に学校の外へ食べに行くことが多くありました。中国の物価は日本に比べてかなり安く、想像以上に多くの種類の料理を試すことができた点は大きな魅力でした。ただし、慣れない食材や調理法のためか、半分以上の料理で体調を崩してしまったことは苦い経験として記憶に残っています。

また、この留学生活で最も印象に残ったのは各国から集まった留学生との交流です。中国語を学ぶだけでなく、英語や韓国語を使いながら、互いの文化や習慣について語り合うことで、世界が広がったように感じました。幸いなことに現地では人に恵まれ、出会った人々は皆優しく親切で、そのおかげで安心して充実した日々を過ごすことができました。クラブや動物園への訪問、バスケットボール、夜遅くまでのトランプなど、授業以外にも多くの楽しい経験ができ、この一カ月は忘れられない時間になりました。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

今回の北京語言大学での研修を振り返って、私が一番に感じたことは、自分の語学力の不足でした。授業中に先生の説明を聞いても理解が追いつかないことが多く、発言を求められても思うように言葉が出てこないことがありました。また、休み時間に中国人学生や他国の留学生と交流しようとしても、言いたいことがうまく表現できず、もどかしさを感じる場面が何度もありました。観光や食事の際も同様で、簡単な会話ですら思った以上にスムーズにできない自分に気づき、語学力の低さを痛感しました。

しかし、日々の生活を通じて自分の成長を実感する瞬間もありました。たとえば、お店で注文する際に最初は緊張して言葉が詰まってしまっていたのが、数日経つうちに自然とスムーズに言えるようになったことや、授業中に先生から質問を受けても慌てることなく答えられるようになったことは、小さいながらも大きな自信につながりました。

また、この研修を通じて、明海大学での授業だけでは得られない学びをたくさん経験することができました。中国での生活は、教科書には載っていない日常的な表現や、実際に使われている自然な言い回しに触れることができ、実践的な力を身につけることができました。さらに、毎日の食事や買い物を通じて日本とは異なる文化や価値観を肌で感じることができたのは、非常に貴重な体験でした。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の北京語言大学での研修授業を通じて、私は自分の学習姿勢や語学力向上のために必要なことを多く学びました。特に、授業中に必ず全員に発言の機会が与えられるという環境は、自分にとって非常に大きな刺激となりました。普段の授業では、どうしても受け身になりがちで、先生やクラスメイトの発言を聞いて理解することに満足してしまうことがありました。しかし、研修中は自分自身が発言しなければ授業が進まない場面が多く、積極的に考えて発言する習慣が自然と身についたように思います。この経験を今後の明海大学での授業にも生かし、ただ聞くだけでなく、自ら積極的に発言し、学びを深める姿勢を維持していきたいです。

また、宿題の多さや内容の多様さからも大きな学びを得ました。毎回の授業後に課される復習問題や作文、音声録音などは確かに大変でしたが、授業で学んだ内容をその日のうちに定着させる効果が大きいと感じました。日本に戻ってからは、自分自身でも同じように復習の時間を設け、授業で学んだ表現を実際に使ってみたり、声に出して練習する習慣を続けていきたいです。

さらに、この研修で身につけた学習習慣や積極性は、将来の進路にも必ず役立つと思います。今後、中国語を使った仕事に携わるときには、相手の話を理解するだけでなく、自分の考えを正確かつ迅速に表現する力が求められます。その力を鍛えるためにも、今回学んだ「積極的に発言する姿勢」と「授業外でも学習を継続する習慣」を大切にし、学生生活の中でさらに磨いていきたいです。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等： 東呉大学（台湾）
研修期間： 2026 年 2 月 2 日（月） ～ 2026 年 2 月 8 日（日）
1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 東呉大学では 3 日間の研修を行い、1「台湾の言葉」2「台湾の食事」3「台湾の文化」について学びました。台湾語には、「國語」「台語」「台湾國語」「台湾華語」「客語」「原住民語」があり、いずれも正式な「國家語言」とされていることが分かり、その他にも宗教・健康・環境保護・流行などを背景とする素食文化を学び、純素や蛋奶素などの種類があることが分かりました。さらに、人口構成や主要都市、伝統文化などの台湾社会の特色を学んで、理解を深めることができました。また、講義だけでなくたくさんの場所にも行きました。台湾初日に九份や十份を訪れ、歴史ある街並みを堪能した他、國立故宮博物院や龍山寺など台湾の歴史が詰まった建物を見学しました。パイナップルケーキ作り体験など、台湾ならではの体験もできました。台北、高雄、台南と移動し、気候の変化にも違いがあって驚きました。台湾の歴史ある建物や景色、文化を体感することができた一週間でした。
2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 今回の台湾研修では、ホテルに滞在し、2 人部屋で 1 週間過ごしました。研修先ではガイドさんがついており、観光スポットなどの案内をたくさんしてくださり、初めての海外も楽しく過ごすことができました。また、東呉大学の学生さんと共に台北市内を巡りました。私たちが行きたい場所に学生さん方が案内をして、西門や迪化街などに連れて行ってくれました。積極的に私たちに声をかけてくれて、お互いの大学生活や将来のことなど、たくさんお話しするうちに距離も縮めることができました。ホテルに戻ってからは友達と一緒に現地のスーパーやご飯屋さんにも行きました。スーパーでは、、商品を探すときに勇気を出して中国語で店員さんに聞いてみたり、注文方法が分からず困ったときに、近くにいた現地の人に翻訳アプリを使いながら声をかけたら、親切に答えてくれて、その温かい対応に台湾の人々の優しさや思いやり精神を感じました。観光だけなく、人と関わることで分かる、人との繋がりの大切さを改めて感じることができました。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

今回の海外研修を通じて、精神的に少し成長を感じました。なぜなら、研修前の私は、中国語に自信がないのもあり「言葉が通じなかったらどうしよう」という不安や言い間違いの恐怖心が少なからずあったからです。しかし、実際に台湾に来て、東呉大学の学生さんや現地の方々との交流を経験する中で、その考えが変わりました。拙い中国語でも一生懸命伝えようとすれば相手はしっかりと耳を傾けて、理解しようとしてくれました。現地の親切な人々と学生さん方に助けられた経験は私にとって、とても貴重なものになりました。また、台湾には多様な言語や文化が共存していて、多様性や異文化についての視野が日本にいた時よりも広がった気がします。自分の当たり前が、海外に行くことで世界の当たり前ではないことを知り、ただ違いを否定するのではなく、理解したり、受け止めようとする姿勢の大切さに気づくことができました。これは実際に海外に行って気づく、私にとって財産になる経験になりました。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の海外研修で台湾の歴史や文化を実際に体感できたことは、今後の学校生活や将来においても、とても良い経験になると思いました。九份や故宮博物院などで歴史に触れるだけでなく、現地の大学で文化を学び、街を散策したり、人と関わる中で、その土地の文化が今も人々の生活の中に息づいていて残っていることを実感することができました。教科書や観光するだけでは分からない「生きた文化」に触れられたことは、私にとってとても貴重な体験となりました。海外で実際に過ごしてみて分かる人との繋がりや言葉が十分に伝わらなくても、笑顔や相手を思いやる気持ちがあればあるほど心は通じるということを学びました。この経験から、今後の学校生活では、授業やゼミ活動、人間関係においても、自分から積極的に関わり、多様な考え方を受け入れられるような人になりたいと思いました。また、将来社会に出た際は、異なる価値観や文化を持つ人との関わりが増えると思うので、今回学んだことを活かしていきたいと思いました。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間：　2026 年 2 月 14 日（土）～　2026 年 3 月 2 日（月）

1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上）

派遣先では主に英語を英語で学ぶ授業の進め方や、学生が主体的に参加する活動を多く取り入れた授業構成について学んだ。研修の 1 週目は明海大学の学生のみのクラスで、主に英語で英語を教えることについて学んだ。授業では、オーストラリアの基本的な情報を教わったり、それに関するクイズに答える活動があり、楽しみながら文化理解を深めることができた。また、日本とオーストラリアの教育の違いについて考察する活動もあり、それぞれの教育の良い点や課題について意見を出し合うことで、教育のあり方について改めて考える機会となった。

さらに、AI の有効な活用方法について学ぶ授業もあり、先生は AI を使って生徒に出題する問題を作成することがあると知った。これからの教育では AI を適切に活用する力も重要になると感じた。また、空欄に形容詞を当てはめて「自分のしたいこと」についてペアで話す活動や、文章中から助動詞を見つけてその機能を分類する活動など、文法を実際のコミュニケーションと結びつけながら学ぶ授業も行われた。文章題についてペアで考え、お互いの意見を交換しながら答えを導く活動もあり、協働的に学ぶことの重要性を実感した。発音記号の学習では、先生が一つ一つの発音を覚えやすいように工夫されたワークシートを用意しており、発音を楽しく学ぶことができたことも印象的であった。また、音楽を用いた英語学習では、英語の曲の歌詞を使って英語表現を学び、先生が歌った曲の歌詞を皆で当てはめていく活動を行った。音楽を取り入れることで英語学習への興味が高まり、楽しみながら学ぶことができると感じた。

2 週目は他大学の学生との合同クラスとなり、さらに多様な視点を持つ学生と一緒に学ぶ機会となった。授業ではオーストラリア英語に関するプレゼンテーションを行ったが、いきなり発表を求められるのではなく、まずオーストラリア英語というものがあるということを紹介され、それらの特徴についての説明があり、その後に実際の表現を使ってプレゼンを作るという流れで進められていた。このように、教師が学習内容を段階的に提示することで学生の理解が深まり、より主体的に学習に取り組めるのだと感じた。将来教職を目指す立場として、教師の授業の進め方が学生の学びに大きく影響することを強く実感した。

2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

派遣先では、ホームステイ先での生活を通して相手の自由を尊重する価値観を強く感じた。今回の研修ではホストファミリーの家庭に滞在するホームステイという形で生活を送った。最初は海外での生活に不安もあったが、ホストファミリーはとても温かく接してくれ、安心して生活することができた。

特に印象に残っているのは、ホストファミリーがよく「Take your time」という言葉を使っていたことである。家では自由に過ごしてよいことや、家のものは好きに使ってよいと言われており、自分のペースを大切にしてよいという雰囲気があった。この言葉から、相手の行動や考え方を尊重する姿勢が感じられた。日本では周囲に合わせることを重視する場面も多いが、ホストファミリーはそれぞれの自由や個性を大切にしているように感じた。また、日常生活の中では食事の時間にその日の出来事について話したり、日本について質問されたりすることも多くあった。英語でうまく説明できないこともあったが、相手が理解しようとしてくれる姿勢があったため、会話を続けることができた。この経験を通して、言語は完璧でなくても、相手と交流しようとする姿勢があればコミュニケーションは成立するのだと実感した。

これらを通して、オーストラリアの多文化社会の背景にはこのような一人一人の考え方や行動があるのではないかと感じた。相手の自由や価値観を尊重する姿勢が社会全体にあるからこそ、様々な文化を持つ人々が共に生活できるのではないかと思った。ホームステイを通して現地の生活や価値観を直接感じることができたことは、教室で学ぶだけでは得ることのできない貴重な経験であった。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

海外研修を通して、英語教育について英語で学ぶ経験を通して、自分が将来教壇に立つ姿をより具体的に想像できるようになった。これまで大学では英語教育について日本語で学ぶ機会が多かったが、今回の研修では英語を使いながら英語教育について学ぶ授業が行われていた。そのため、実際に英語で授業を受ける立場を経験することで、英語をどのように教えるのかという視点をより実践的に考えることができた。

また、2 週目の合同クラスでは他大学の学生と一緒に授業を受ける機会があったが、その中には数か月間の長期留学をしている学生や、英語だけでなく複数の言語を学んでいる学生も多くいた。そのような学生たちと交流する中で、自分の英語力や経験がまだ十分ではないと感じる場面もあった。最初はその差に戸惑うこともあったが、同時に自分ももっと努力しなければならないという気持ちが強くなった。

今回の研修を通して、自分の現在の実力を客観的に見つめ直すことができたと感じている。また、英語を学ぶことの大切さだけでなく、英語を通して多くの人と交流し、様々な価値観に触れることの重要性も実感した。この経験は、自分の学習への意欲を高めるきっかけになったと感じている。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の海外研修の経験を今後に活かしていきたいことは、自分が本当に教師になりたいのかを改めて考えながら、将来の自分の姿についてより具体的に想像していくことである。今回の研修では英語教育について実践的に学ぶ機会が多くあり、教師の授業の進め方や指導方法が学生の学びに大きく影響することを実感した。その経験を通して、自分が将来教師としてどのような授業を行いたいのかについても考えるようになった。

また、合同クラスで出会った学生たちの姿から、自分の英語力や学習姿勢について改めて考える機会にもなった。長期留学を経験している学生や複数の言語を学んでいる学生の姿を見て、自分ももっと英語学習に積極的に取り組みたいという気持ちが強くなった。研修が終わった後も、この経験をきっかけとして英語学習に継続的に取り組み、自分自身の能力を高めていきたいと考えている。

さらに、将来教師になった際には、今回の研修で学んだ授業の工夫や活動を参考にしながら、生徒が主体的に学ぶことができる授業を実践していきたいと思う。英語を知識として学ぶだけでなく、実際のコミュニケーションの中で使いながら学ぶ授業を行うことで、生徒が英語に対して興味を持ち、積極的に学習できる環境を作りたいと考えている。今回の経験を今後の学生生活や将来の教育に活かしながら、自分自身も成長し続けていきたい。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：シーキューユニバーシティ（オーストラリア）
研修期間：　2026 年 2 月 7 日（土）～　2026 年 2 月 28 日（土）
1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 授業では、日常のコミュニケーションでよく使われる英語表現を中心に学びました。教科書的な表現だけでなく、実際の会話で自然に使われる言い回しやリアクションの仕方を練習し、相手に気持ちが伝わる話し方の大切さを実感しました。また、オーストラリア特有のスラングについても学習しました。例えば「How ya goin?」などのオーストラリア独自のあいさつのほかに、言葉を短く省略する表現が多いことを学びました。 さらに、オーストラリアの動物はコアラやカンガルーだけでなく、ウォンバットやエミューなど、日本ではあまり知られていない固有種が多く存在することを知り、自然環境の豊かさを感じました。また、動物保護や自然環境を守る取り組みについても学び、オーストラリアでは特に自然を大切にしていることを理解しました。 加えて、オーストラリアでのスポーツは多くの人に親しまれており、特に AFL（オーストラリアン・フットボール・リーグ）は国民的なスポーツであり、人々の生活や文化に深く根付いていることを実感しました。スポーツを通して地域のつながりが強まっていることも印象的でした。 最終回の授業ではプレゼンテーションの発表を行いました。発表の準備をする段階では、人前で自分の意見を英語でわかりやすく伝える方法を教わり、アイコンタクトや声の大きさ、ジェスチャーの使い方が重要であることを理解しました。
2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 派遣先での生活では、ホームステイを通して日本とは異なる文化や価値観に触れることができました。私のホームステイ先のホストファミリーは中国出身の方で、オーストラリアは多文化社会であることを実際に肌で感じました。他の参加者のホームステイ先も様々な人種やルーツを持つ家庭であり、一つの国に多様な文化が存在しているなかで生活できたことはとても貴重な経験となりました。 特に印象に残っているのは、夕食の時間にホストファミリーとテーブルを囲み、その日の出来事を話したり、日本とオーストラリアの生活の違いについて話したことです。日本の文化を英語で説明する難しさを感じながらも、うまく伝わった際はとても嬉しく、自信にもつながりました。 また、滞在先であるクイーンズランド州では、バスや電車の公共交通機関が一律 50 セントで利用できました。日本と比べて非常に安く、気軽に出かけることができました。ショッピングセンターや植物園、川沿いのエリアなどにも足を運び、多くの景色や文化に触れることができました。自分の目で街の雰囲気を感じながら行動することで、日本とは異なる生活スタイルや人々の過ごし方を知ることができ、たくさんの新しい経験を積むことができました。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

今回のオーストラリア研修は将来の進路を含め、自分自身を見つめ直す機会となりました。研修前は自身の英語力に対して不安を抱えており、間違いを恐れてあまり発言することができませんでした。しかし、現地では自ら話しかけなければ何も始まらない環境であり、勇気を出してコミュニケーションを取る中で、英語は完璧でなくても伝えようとする姿勢が何よりも大切であると実感しました。

また、海外の人々のオープンでフレンドリーなコミュニケーションに刺激を受けました。初対面でも笑顔で話しかけ、相手の意見を尊重しながら会話を楽しむ姿勢は、日本のコミュニケーションとの違いを感じると同時に、とても魅力的だと感じました。そのような環境の中で過ごすことで、私自身も以前より積極的に自分の意見を伝えられるようになりました。

さらに、多文化社会の中で生活したことで視野が大きく広がりました。様々な国の背景を持つ人々と交流する中で、自分のなかの当たり前が決して世界の当たり前ではないことを感じました。

これらの経験を通して、将来は日本だけでなく、グローバルな舞台で活躍したいという思いがより強くなりました。今回のオーストラリアでの研修は、語学力だけでなく、価値観や考え方の面でも自分自身の成長を感じることができました。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

まず、英語力の向上は必要不可欠であると強く感じました。現地での生活を通して、英語は単なる教科ではなく、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションツールであると実感しました。今後は授業だけでなく、自主的な学習やオンライン英会話などにも積極的に取り組み、実践的な英語力を高めていきたいです。

また、海外で学んだ積極性やオープンな姿勢も大切にしていきたいと思いました。日本にいるとどうしても周囲の目を気にして発言を控えてしまうことがありますが、研修を経て学んだまずは互いに尊重したうえで意見を伝えてみるという姿勢を忘れずに、授業やグループワークで自分の意見を発信していきたいです。

さらに将来はグローバルに活躍できる人材になることを目標にしています。そのため語学力だけでなく、異文化を理解し尊重する力や、多様な価値観を受け入れる柔軟性も培っていきたいと考えています。

今回の経験を活かし国内外を問わず様々なことに挑戦し、自分の可能性を広げていきたいです。オーストラリアでの生活は、将来像を具体的に考えるうえで非常に貴重な経験となりました。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：JTB シンガポール支店他（シンガポール）
研修期間：　　2025 年 8 月 31 日（日）～　2025 年 9 月 7 日（日）
1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 今回のシンガポール研修では、企業訪問を通して多くのことを学んだ。JTB シンガポール社では、海外でのビジネスの進め方や人材の考え方を知ることができた。もともとは国と国をつなぐ組織として始まり、今ではイベントの運営や海外での商品発表なども行っている。シンガポールは多言語社会なので、ビジネスを広げやすい環境があることも印象的だった。また、日本では平均的に何でもできる人が評価されるが、シンガポールでは「専門性がある人」が必要とされることも学んだ。さらに、文化を尊重し、積極的にアイデアを出せる人や、英語と日本語を使いこなせる人材が求められていると聞き、自分も将来に向けて強みを持つことの大切さを感じた。フードバンクシンガポールでは、食料を必要とする人に支援を行っていて、社会問題を実感できた。「自分にもできることはあるのではないか」と考えるきっかけになった。寛寿司では、日本からシンガポールに挑戦する姿に強く心を動かされた。コストの高い国で品質を落とさずに経営を続ける工夫として、魚の骨で出汁をとるなど細かい努力をしていることを学んだ。観光でも学びはあった。チャイナタウンやアラブストリートでは異文化を体験でき、国立博物館やアジア文明博物館ではシンガポールやアジアの歴史をまとめて学ぶことができた。観光も「ただ楽しむ」だけではなく、その背景にある文化や歴史を意識できたことが大きな学びだった。
2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） シンガポールでの 1 週間の生活は、初めての海外滞在として大きな経験になった。ホテルを拠点に、先輩や同級生と行動することで安心感があり、同時に自立した生活を体験できた。街はとても清潔で安全で、至るところにゴミ箱があるなど、ルールを守る国らしさを実際に感じた。現地の人との交流でも印象的なことが多かった。観光地やお店で日本語を話しかけてくれる人がいて、日本文化が広く知られていることに驚いた。英語で会話する機会も多く、人見知りの自分でも少しずつオープンに話せるようになった。文化の違いを尊重して接することの大切さを実感できた。自由時間にはさまざまな観光地を訪れた。チャイナタウンやアラブストリートでは異国の雰囲気を味わい、セントーサ島では少しだけ見えた夜の花火に感動した。リバークルーズからの夜景やシンガポールフライヤーでの景色も忘れられない体験となった。また、チキンライスやラクサなどの料理を食べ、食文化の多様さを実感した。さらに、一緒に研修に参加した仲間との関係が深まったことも大きな収穫だった。異国で一緒に学び行動したことで、普段の大学生活では得られない信頼関係を築くことができた。多文化を知るだけでなく、人とのつながりの大切さも学ぶことができた 1 週間だった。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

研修に行く前の自分は「シンガポールはルールが厳しい国」「多文化社会」という表面的な知識しか持っていなかった。けれど、実際に現地で生活し、人々と話し、企業訪問や観光を経験する中で、自分の考え方や価値観が大きく広がったことを感じた。街のきれいさや治安の良さはもちろん印象に残ったが、それ以上に心に残ったのは、異なる文化や宗教を持つ人々が自然に共存している姿だった。チャイナタウンやアラブストリートでは、それぞれ独自の雰囲気を強く感じたが、それが一つの国の中に共存していることに驚いた。多文化を受け入れる姿勢こそが、シンガポールの魅力であり強さだと思った。

企業訪問では、自分の将来のキャリアを考える大きなきっかけになった。JTB や寛寿司の方々から、国際社会では「平均的に何でもできる人」ではなく「専門性を持つ人」が求められると学んだ。自分もどの分野で力を伸ばしていくかを考え、今から意識して磨く必要があると強く思った。さらに、フードバンクの取り組みから、ビジネスの世界だけでなく、社会に貢献する気持ちの大切さも学んだ。将来は社会に役立つ人になりたいと思うようになった。

生活面でも成長があった。人見知りで積極的に話すのが苦手だったけれど、現地で買い物や食事をする中で自然に会話をすることができ、自信につながった。研修を通して一番心に残ったのは「挑戦する大切さ」だった。寛寿司の経営者の「依頼以上のことを全力でやる」「NO と言わない」という言葉は、仕事だけでなく生き方そのものに通じると思った。不安を抱えながら挑戦した海外研修で、多くの気づきと成長を得られた。これからも恐れず挑戦し続け、経験を積み重ねたい。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の研修で得た学びは、これからの学生生活や将来のキャリアに大きな影響を与えると思う。まず意識したいのは「自分の強みをつくる」ということ。JTB や寛寿司で学んだように、国際社会では平均的に何でもできる人より、一つの分野で光る専門性を持つ人材が求められる。だからこれからの大学生活では、自分がどの分野で力を伸ばせるかを意識して、授業やゼミ、資格や課外活動に真剣に取り組んでいきたい。

また、フードバンクから学んだ「社会に貢献する姿勢」も大切にしたい。将来は人や社会の役に立つ仕事をしたいし、そのために今できることもあるとこの研修を通して感じた。ボランティアや地域活動など、身近なところから小さな貢献を重ねていきたい。

そして一番活かしたいのは「挑戦する姿勢」。不安を抱えながら参加した研修だからこそ、大きな学びがあった。これからも新しいことに臆せず挑戦し、学生生活では新しい分野や活動にチャレンジしたい。社会に出たときには、周囲に価値や喜びを与えられる人を目指す。今回の研修は単なる海外体験ではなく、将来を考えるきっかけであり、生き方を見直す転機になった。この学びを忘れず、これからの人生につなげていきたい。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学（アメリカ）

研修期間： 2025 年 9 月 2 日（火）～ 2025 年 9 月 9 日（火）

1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の派遣研修では、ハワイにおける歴史や不動産の実態について多方面から学習した。
1 日目はプランテーションビレッジを訪問し、移民労働者の住居を視察した。サトウキビ産業を支えた労働者の生活も再現されており、移民は過酷な環境で長時間働きながらハワイの主要な産業を支えた歴史を学んだ。生活様式は時代とともに薪からオイルへの燃料転換や水洗トイレの普及など変化していた。沖縄出身者は残飯にオートミールを混ぜて豚に与えるなど、食料を無駄にしない工夫を行っていた。また労働者は番号タグで管理され、民族ごとに形を変えることで区別されていた。さらに民族間の団結を防ぐため賃金に差をつけ、意図的に対立を生じさせていた。
2 日目はハワイ大学で不動産業について学んだ。コンドミニアム価格下落の背景には保険料の高騰と供給制約があり、農地や軍用地が多いため建設可能地が限られていること、申請や許可に 500 日以上を要することなどが要因とされる。またハワイ独自の文化として、自然を「オハナ」と捉える思想についても学んだ。
3 日目は不動産開発と災害対策の関連について学び、用途地域や都市計画の工夫により避難の遅れや被害の軽減につなげる取り組みを確認した。4 日目のカカアコエリ視察では、ワードビレッジの高級コンドミニアムを見学し、共用施設や景観規制、さらに全体の 2 割を低所得者向け住宅にする義務があることを学んだ。
5 日目はホクラニ・ワイキキやマリオット・バケーションクラブを訪れ、タイムシェアの仕組みや販売方法を学習した。
6 日目には税制回避のための不動産交換取引や、ホオピリ住宅開発現場における木材主体の建築、効率的な一斉建設方式を視察した。
7 日目はオープンハウスを訪れ、契約書の多さや玄関を設けない文化的特徴、海が見える住戸の価格上昇傾向などを確認した。
このように、本研修を通じてハワイの不動産は歴史、制度、文化、環境が複雑に関係していることを体系的に学ぶことができた。

2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の派遣研修では、海外での生活や現地の方々との交流を実際に体験することができた。生活面では日本と異なる点が多く、特にシャワーが固定式でバスタブがないことには慣れるまで時間を要した。食事に関しては、日本食を扱う店が数多くあり安心できたものの、全体的に野菜が少なく、日本での食生活との違いを強く感じた。それでも料理はどれも美味しく、異国ならではの食文化を楽しむことができた。交流の面では、現地の人は非常にフレンドリーで優しい方ばかりで、カタコトの英語でも分かりやすい単語に直して話してくれるなど、意思疎通がしやすい環境だった。不動産販売の担当者と接した際には、売れなくても別の購入希望者が現れるため心配はないという余裕ある姿勢が印象的であった。また、多くの物件を建てても市場に受け入れられるという自信も示されており、日本の不動産業界との違いを肌で感じた。生活と交流の両面を通して、海外で働く人々の価値観や考え方に触れられたことは非常に貴重な経験となった。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

海外研修を通じて、現地での生活や交流を経験し、自分の成長を実感することができた。研修前は、現地の人と会話をすることや英語を使うことに抵抗があり、苦手意識もあったため、会話の内容を理解するのに苦労することが多かった。しかし、研修を重ねるうちに耳が慣れ、すべてではなくても状況や表情から内容を理解できるようになり、少しずつ意思疎通ができるようになったことは、自信につながった。そして、英語に対する意欲が高まったと思う。また、ハワイは観光地やリゾート地、投資用不動産のイメージしか持っていなかったが、プランテーションビレッジや大学での講義を通して、歴史や文化、社会の背景について学ぶことで、考え方が大きく変わった。現地の人々の生活や価値観に触れることで、表面的なイメージだけで判断していた自分に気づき、物事を多角的に見る視点を得ることができた。この研修を通して、異文化理解力やコミュニケーション能力が向上しただけでなく、柔軟な思考の大切さも実感することができた。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回の海外研修で得た経験や学びは、これからの就職後の生活や仕事に大いに活かせると感じている。現地での生活や交流を通じて培った異文化理解力やコミュニケーション能力は、職場でさまざまな人と関わる際に役立てられると思う。また、カタコトでも意思疎通を試みる中で得た自信や積極性は、業務で初めてのことに挑戦する際や、新しい環境に飛び込む場面でも生かせると考えている。さらに、ハワイの歴史や文化、現地の人々の価値観を学んだことで、物事を多角的に見る視点を養うことができたため、職場での判断や提案にも応用できる。加えて、英語で意思疎通した経験は、語学力の向上への意欲を高め、将来的に海外とのやり取りや国際的な案件にも挑戦したいという気持ちにつながった。この研修で学んだことを、仕事を通じて具体的に実践し、自分の成長につなげていきたい。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：	ハワイ大学（アメリカ）
研修期間：	2025 年　9 月　2 日（火）　～　2025 年　9 月　9 日（火）

1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上）

本研修は、ハワイの歴史文化、都市開発、不動産市場の現状について、現地の不動産開発事業者、公的機関、歴史文化研究者など、各分野の専門家から多角的な視点で学びました。

現代ハワイの社会構造や不動産市場を理解する上で、その歴史的背景、特に土地に対する独特の価値観が不可欠です。ハワイの先住民であるカナカ・マオリは、土地を私有財産として捉えるのではなく、山から海までを一つの生活圏として管理する「アフプアア」というシステムの中で、自然と共生してきました。人々が土地（アイナ）をケアし、土地によって生かされるという思想が、彼らの文化の根底に流れています。しかし、1778 年のヨーロッパ人との接触以降、西洋的な土地の「私有」という概念が持ち込まれました。1848 年頃の「マヘレ」と呼ばれる土地分割により、先住民はその土地の大部分を失い、その土地はサトウキビやパイナップルのプランテーションへと姿を変えました。この歴史的経緯が、現代における土地所有の複雑さの一因となっています。また、プランテーション経営のために中国、日本、フィリピンなどから多くの労働者が移住したことが、今日のハワイにおける特定の多数派人種が存在しない多文化社会の礎を築きました。

オアフ島の不動産市場は、極端な需要過多と供給不足により、世界でも類を見ない特異な状況にあります。開発可能な土地が軍用地、保全地域、農地などで大半を占めており、新規の住宅供給が極めて困難なことが深刻な供給不足の要因です。ハワイは、アメリカ全土で最も住宅開発が難しい地域の一つとされており、さらに開発の承認を得るために 400 日から 500 日という長期間を要することも、供給の遅れに起因しています。市場の動向としては、慢性的な供給不足により不動産価格は著しく高騰しており、特にコロナ禍でその傾向が加速しました。一方で、価格が急騰するのに対し賃料の上昇は比較的緩やかであるため、両者のギャップが拡大し、投資家の利益は低下傾向にあります。それにもかかわらず、不動産税がなく、依然として多くの投資家をが集まります。開発における独自の規制として、新規開発においては建物の外観や内装にハワイの文化を象徴するモチーフを取り入れることが求められる場合があるほか、開発事業者はプロジェクト全体の 20%を低所得者向け住宅として供給することが義務付けられており、事業計画に大きな影響を与えています。

このような厳しい環境下で、ハワイでは独自のビジネスモデルや所有形態が発展しています。その事例がワードビレッジです。これは、商業施設と住宅を一体化した 14 棟の高層コンドミニアムを建設する、現在進行中の大規模な複合開発であり、リスク管理手法が特徴です。建設着工前に販売を開始し、契約率が 6 割以上に達した場合にのみ建設を進めるプリセールス方式を徹底することで、プロジェクトの初期段階で資金を回収し、事業リスクを大幅に軽減しています。これは、完成が近づいてから販売を開始する日本のモデルとは異なります。また、低所得者向け住宅の供給義務に対しては、その住棟を山側に集約して建設することで、高価格帯となる海側の棟とコミュニティを明確に分け、物件全体のブランド価値を維持・向上させています。

ハワイ特有の所有形態としては、「コンドミニアム」と「タイムシェア」が挙げられます。コンドミニアムは日本の分譲マンションに類似していますが、永住目的よりもリゾート利用が中心である点が異なります。所有者が利用しない期間は、ヒルトンのような管理事業者がホテルの客室として貸し出し、収益を得る「ホテルコンドミニアム」という形態が一般的です。一方、タイムシェアは、一つの物件の所有権を複数人で分割し、特定の期間の利用権を購入する仕組みです。これにより、高額なリゾート物件を個人で購入するよりも費用を大幅に抑えることができます。近年では、購入した権利をポイント化し、そのポイントを使って系列の他のリゾート施設やクルーズなどのサービスも利用できる、より柔軟性の高いシステムが主流となっています。

本研修を通じて、ハワイの不動産開発と市場は、その歴史的背景、地理的制約、そして独自の文化と深く結びついており、複雑に絡み合うことで世界でも類を見ない市場を形成していることが明らかになりました。経済合理性だけでは測れないハワイの多層的な社会構造と、その中で生まれる事業モデルを学ぶことができました。

2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上）

ハワイ滞在中、言語の面で苦労することはほとんどありませんでした。街の至る所で日本語を目にし、飲食店のメニューにも日本語が併記されていることが多く、日本人にとって非常に生活しやすい環境だと感じました。しかし、その環境に甘えることなく、現地の方々とのコミュニケーションはすべて英語で行うことを心がけました。

ハワイの生活文化で特に印象的だったのは、人々と海との密接なつながりです。早朝、朝食を探しに街を散策していると、まだ日が昇ったばかりの時間にもかかわらず、サーフボードを抱えて海へ向かう人や、水着姿でビーチを目指す人々の姿を頻繁に見かけました。この光景から、ハワイの住民にとって海がいかに生活の一部であるかを実感しました。

一方で、サービスの質については日本との違いを感じる場面もありました。例えば、ホテルのベッドメイキングは日によって仕上がりに差があり、タオルの交換がされていない日もありました。その際はフロントまで直接足を運ぶ必要があり、また飲食店では注文がスムーズに通らず、待たされることも一度ではありませんでした。

しかし、そうした経験を含めても、ハワイの街の雰囲気はとても魅力的でした。特に、日本とは全く異なる雰囲気のスーパーマーケットやローカルな食堂を訪れるのは面白い体験でした。ハワイでは、ボウルにご飯を盛り、複数のおかず（メインとサイド）を自分で選ぶスタイルの食事が多く、その度に店員の方と英語でやり取りを交わすのがとても楽しかったです。また、研修の視察中に現地の方から話しかけられることもあり、その際も英語でコミュニケーションを取れたことは、貴重で楽しい経験となりました。

オアフ島は決して広大な島ではありませんが、完全な車社会であり、道路は常に車で溢れていました。歩行者用信号はボタンを押さないと変わらず、広い場所では 5 車線にもなる高速道路など、アメリカ本土の交通インフラがそのまま導入されていることを感じさせます。

気候については、日差しは強いものの湿度が低いため、日陰に入ると風が心地よく、涼しく感じられました。これも、高温多湿な日本の夏ではなかなか味わえない感覚です。

滞在中、お店に入る時や会計の際など、人々が頻繁に「アロハ」という言葉を口にしているのが印象的でした。「アロハ」の一言には様々な意味が込められており、ハワイの文化に深く根付いている言葉なのだと感じました。

3　研修を振り返って

（1）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

今回のハワイ研修は、物事を学ぶ上での私の価値観を大きく変える経験となりました。研修前は、専門的な知識を一つでも多く得ることが重要だと考えていましたが、現地での学びを通じて、得た知識をもとに物事を多角的に考察することの重要性を痛感しました。

例えば、不動産開発一つをとっても、様々な立場からの視点がありました。開発事業者の視点に立てば、行政からの許認可を得るための長期的な実行力や、市況を見通す先見性が不可欠です。一方で、都市計画や防災の観点からは、近代的な開発が都市の安全性を高めるという側面があります。しかし、歴史や文化を尊重する立場から見れば、その開発がハワイならではの景観やコミュニティを失わせる可能性も否定できません。

この経験は、単に知識を正解として覚えるのではなく、それらをどう活用し、複雑な状況に対応していくかという、柔軟な思考力が大切さを学びました。一つの視点に固執せず、総合的に判断することの重要性を深く学んだ研修でした。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

今回のハワイ研修で得た物事を多角的に捉え、柔軟に思考する力をこれからの学生生活、そして将来のキャリアにおいて活かしていきたいと考えています。

まず学生生活においては、ゼミでの研究やグループワークの場で活かせると思います。これまでは、自分が調べた知識やデータに基づいて一つの正しい結論を導き出すことに集中していました。しかし、ハワイの不動産開発が事業者、住民、行政など様々な立場からの視点で成り立っていたように、複雑な社会課題には唯一の正解は存在しません。今後は、あえて自分とは異なる意見に耳を傾け、その背景にある価値観や論理を理解しようと努めます。多様な意見を統合し、より良い合意形成を目指すプロセスを実践することで、思考の幅と深さを養っていきます。

将来、社会に出て仕事をする上では、この柔軟な思考力はさらに重要になると感じています。どのような職務においても、立場や専門性が異なる人々と協働する場面は必ず訪れます。その際、自分の知識や正しさだけを主張するのではなく、相手の立場を尊重し、プロジェクト全体にとっての最適解を模索する姿勢が重要だと考えています。利害が対立する困難な課題に直面したときこそ、この研修で学んだ多角的な視点が、解決を見つけ出すと信じています。知識を蓄えるだけでなく、それを実践的な知識を活用できる人材になることです。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：建国大学校他（韓国）
研修期間：　　2026 年 2 月 22 日（日）～2026 年 2 月 27 日（金）
1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 授業内容についてまず釜山外国語大学では、日本語と韓国語の違いについて学び、建国大学では韓国の住宅市場及びチョンセー制度について学びました。 釜山外国語大学では、その国の文化と言語の関係について深く学び、韓国語では直接的な表現を活用する一方で、日本語では、間接的な表現を好む。例えば誘いを断るときなど韓国ではその日は予定があり行けませんと直接的な表現をするのに対し、日本ではその日は都合が悪いなど直接的な表現の行けないという言葉を使うことはほとんどない。これは文化の違いが関係しており、韓国では伝えの文化があり美徳として正直であること、情熱的であることがあります。しかし日本では察しの文化があり美徳としては言わなくてもわかる、空気を読むことです。このように、韓国語と日本語は文法が似ているという点もありますが文化という点で異なることについて学びました。 建国大学では韓国特有の制度であるチョンセー制度について深く学び、これは韓国特有の制度であり日本には似たような制度もありません。この制度はマンション購入金額の 6 割から 7 割の保険金をもらい代わりに二年間の家賃を免除するというものです。この制度の背景として韓国では住居の値段は年々増加していくことを信じるヨンクル族という言い伝えがあり、そのような文化的要因からこのような制度ができたと考えられているようです。
2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 今回の韓国滞在では、ソウルと釜山の二大都市を巡り、その社会システムと人情の機微に触れることができました。まず共通して驚かされたのは、公共交通機関における徹底した防犯・防災意識です。地下鉄ホームに整然と備え付けられたガスマスクや救護キットは、日本のインフラにはない緊張感と、市民のことを優先的に考えてあり、この辺の違いは国営のインフラの強みであると感じました。 一方で、都市生活の課題も浮き彫りになりました。路上喫煙の多さや、マナー維持のためにパスワードでロックされた公共トイレの存在は、利便性よりも秩序維持を優先せざるを得ない都市部の現実を物語っています。 しかし、そんな機能的で少しドライな側面がある一方で、都市ごとの個性の違いも印象的でした。洗練されているがどこか忙しないソウルに比べ、釜山は観光客に対して非常に温かく、親切に接してくれる場面が多いと感じました。港町特有の開放感があるのか、現地の人々との交流にはどこか情の厚さが通っており、物理的な安全だけでなく、心理的な安心感を感じました。 強固な防犯システムという硬い守りと、地方都市で見つけた柔らかいおもてなし。この対照的な二つの側面を知ることで、韓国という国の多層的な魅力を深く理解することができました。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

研修を通して私が得た成果は、海外生活に対する難しさや自身の勝手な先入観をなくし、異文化コミュニケーションに対する主体性ができたことである。

研修前、私は海外で学び生活することを非常に困難で高いハードルがあるものだと考えていた。これまで国外で活動する機会がなかったため、言葉の通じない環境で一人で生きていくのは難しいという先入観と不安が強く、自分には厳しいものだと思い込んでいた。

しかし、実際に韓国の街を歩き、現地の人々の生活に触れる中でその意識は一変した。言葉が完璧に通じずとも、自国の言語で懸命に伝えようとしてくれる姿勢や、異邦人である私を迎え入れてくれる温かさに触れ、海外は恐れる場所ではなく、人と繋がれる場所であると肌で感じることができた。

この経験から、単に難しいと避けるのではなく、自ら言語を学び、より深く意思疎通を図りたいという強い学習意欲が芽生えた。未知の世界に対する不安は、再びこの地を訪れ、対話を深めたいという明確な目標へとなりました。この研修で得た友人や現地の人たちとのつながりをもっと自身から深められるように、今後も語学学習と国際交流に邁進したいと思います。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

韓国研修で得た「現地の人々の温かさ」と「対話への渇望」を、私は感じたことで終わらせるのではなく、今後の日常生活における具体的な指針として活かしていきたいと考えている。

第一に、言語学習に対する継続的な挑戦をしたいと思いました。現地で感じた「もっと深く理解し、自分の言葉で伝えたい」という想いを原動力に、まずは韓国語の習得に励みたい。単なる知識の蓄積にとどまらず、将来再び現地を訪れた際に、相手の心に寄り添った深いコミュニケーションが取れるようになればこの研修で得た友人ともっと楽しく過ごせると感じた。この経験を通じて、未知の分野に飛び込み、自らの可能性を広げていく粘り強さを養いたい。

第二に、周囲の人々との繋がりをより大切にすることである。見知らぬ土地で受けた親切を、今度は自分がほかの人に伝えていけるようになり、友人や周囲の人々に対しても、先入観を持たずに誠実に向き合い、互いに助け合える信頼関係を築いていきたい。相手の立場を想像し、積極的に手を差し伸べる姿勢を日常から意識することで、どの立場の人でもその時々の空間を楽しみたいと思いました。

今回の研修は、私にとって「世界を広げることの喜び」を知る大きな転換点となりました。ここで得た自信を、語学のみならず多様なスキルを磨き続け、自分にできることを一つひとつ増やしていき、成長した姿で再び向き合い、社会に貢献できる人間へとなっていきたいと思いました。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：建国大学校他（韓国）
研修期間：　　2026 年 2 月 22 日（日）～　2026 年 2 月 27 日（金）
１　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 私が現地で学んだ学修内容の詳細について 1 日目から 6 日目までを細分化して執筆します。 2 月 22 日(日)は、東京から釜山へ行きました。飛行機の搭乗までの手続きや韓国に到着してから現地の公共交通機関の利用方法、システムを実際に利用することで韓国の公共交通機関への体系的な理解が深まりました。 2 月 23 日(月)は、釜山市内研修を行いました。前日に公共交通機関を利用していたこともあり、スムーズに移動ができました。そして、釜山外国語大学へ訪問、研修をしました。研修内容は韓国と日本の言語や文化について学びました。 2 月 24 日(火)は、KTX(高速電鉄)に乗ってソウルへ行ってロッテワールドタワーの視察をしました。ソウルを越えて韓国と世界各国の移動距離も表示されていて、韓国の街並みを詳しく学ぶことができました。 2 月 25 日(水)は、午前に建国大学校へ訪問、研修をしました。建国大学校では韓国の住宅市場の動向について学びました。午後は景福宮へ移動してガイドを通じて韓国の歴史を学びました。また、守門将(スムンジャン)交代儀式を観覧することで朝鮮時代の王宮警備兵の交代についても確認しました。 2 月 26 日(木)は、蘆原区 ZEH 住宅見学をしました。高性能窓や太陽光パネル、外壁のコンクリートと断熱材の関係などの様々な技術を学びました。 2 月 27 日(金)は、仁寺洞の市内調査をした後に帰国しました。 仁寺洞では観光客も多く、街並みや雰囲気も国際化が進んでいるように感じました。
２　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 現地での生活については衣食住で説明すると、衣類は釜山は東京と似ていましたがソウルでは東京よりも寒かったため厚着の人も見受けられました。 現地での食事は、どこのごはん屋に行ってもキムチが出てきました。他にも素材の味を活かした味を感じられました。 住居は日本ではあまり見ない雰囲気の街並みや道路、建物を見ることができて勉強になりました。 　交流については釜山外国語大学や建国大学校での生徒、教授との交流会がありました。どちらの学校もとても親切に出迎えてもらいました。交流会の時に食事をしましたが、韓国式の食べ方などのマナーも学ぶことができました。 　その他記憶に残った点や印象的な点は 2 つあります。 1 つ目は、守門将(スムンジャン)交代儀式です。2 月 25 日(水)のソウルにある景福宮で見たこの儀式は鮮やかな伝統衣装と太鼓の音色が特徴的でした。無料で観覧でき、守門将との記念撮影も可能でした。 2 つ目は、自然が目に入りやすいところです。日本の東京や大阪などの大都市では自然よりはビルやショッピングモール、マンションなどの建物が多いですが韓国の釜山やソウルでは建物のほかにも山が目視することが出来てリラックス効果もありました。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

私がこの研修を通じて成長したことは、積極性です。私は今回の韓国海外研修のおかげで、自分の興味を持った事に素早く行動できる積極的な姿勢が成長しました。なぜなら、研修中に質問があっても消極的だと質問の回答を知る機会を逃してしまいます。ここで私は、貴重な時間を有意義に使うためには積極性が大事だと考えました。研修前は、興味を持っても行動に移せなかったり遅く行動したりしていましたがこの研修を通じて積極性について特に成長しました。

変わったことは、視野が広くなりました。私は大学１，２年生の時は考え方が固まっていましたが、今回の韓国海外研修を通じて様々な経験をしたおかげで思考の柔軟性が高まりました。

私は、参加前と比較して人として大きく成長することが出来ました。

これは明海大学の国際化推進室の皆様や金先生など多くの人たちのおかげです。今回はこのような有意義なプログラムを実施していただき誠にありがとうございます。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

私は、今回の韓国海外研修で積極性、視野の広がりや海外研修のプログラムの流れの理解をしました。これらは貴重な体験です。このような体験を今後の学修においては学校の講義や不動産についての不明点や理解が難しい局面に遭遇しても、視野を広げて思考したり積極的に行動して活用していきます。今後のキャリアについては、海外研修のプログラムの流れを理解した事を適切に活用します。今後社会に出たときに同じような研修、視察があったときに他の人よりも積極的に参加する事ができます。他にも、今後海外に行く時にもこの研修の経験を生かして計画を立てたり現地での対応をすることもできます。

また、このような海外研修は海外にあまり行ったことがない学生や海外によく行く学生どちらにもおすすめできるプログラムだと思います。どちらの学生もこのような海外研修の形で海外へ行くと、旅行などで行く時と比べて学ぶ事が多いからです。例えば、普段見ない場所や建物の歴史などの様々な知識を身に着けることができます。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：　ハワイ大学（アメリカ）
研修期間：　　2025 年 8 月 25 日（月）～　2025 年 9 月 5 日（金）
1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 今回のハワイ研修では、ハワイ大学での授業体験やホテル視察を通して、多くの学びを得ることができました。ハワイ大学での授業では、ハワイの歴史・経済・文化・アロハスピリット、そしてフラについて学びました。その中で、ハワイの文化の一つであるレイ作りを体験することができました。レイは特別な日に大切な人へ贈られるものですが、現在では日常の中でも感謝の気持ちを込めて渡されることがあります。ロイヤルハワイアンを視察した際には、スタッフの方からピンク色のレイをいただき、とても嬉しく感じました。また、フラには観光客向けに発展した現代フラと、伝統的な古典フラがあることを学びました。伝統文化を守り継いでいくためには、観光客に正しい文化を伝えることの重要性を実感しました。さらに、ハワイの観光戦略として「マラマハワイ」の取り組みが行われており、自然と観光の共存を目指していることを知りました。地域の人々はボランティアとしてビーチクリーンアップやウミガメ保護に参加し、観光客に正しい条例を伝える活動を行っていることも印象的でした。加えて、ヒルトンのホテル視察では、チェックイン時にお客様全員へクッキーを配布する取り組みを行っており、「ヒルトンといえばクッキー」と連想させるブランド戦略を展開していることが分かりました。この研修を通じて、たくさんの方々のご協力のもと、ハワイについて深く学ぶことができ、とても有意義な時間となりました。
2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） ハワイで生活してみて、まず夏でも過ごしやすい気候であると感じました。気温は日本とほぼ同じでしたが、湿気が少ないためじめじめせず、涼しい風が吹いてとても心地よい天気でした。ハワイ大学の寮に宿泊した際にはエアコンがありませんでしたが、窓から入る風だけで快適に過ごすことができました。次に、現地の人々の暮らしはとても自由であると感じました。人に合わせるのではなく、自分のやりたいことを大切にしており、他人の目をあまり気にしていない印象を受けました。特に、ハワイ大学で大きなガジュマルの木の下で一人でウクレレを弾き語りしていた学生の姿が強く印象に残っています。また、ハワイには多様な人種の人々が共に暮らしていることを知りました。そのため人種差別を受けることなく、誰もが平等にアロハスピリットを体験できるのだと思います。実際に私も、お店に入った際にスタッフの方が笑顔で「アロハ」と声をかけてくださり、とても嬉しく感じました。さらに、温かく親切な人々が多いことも印象的でした。私がドルの硬貨の計算に困っていたときには、一緒に計算してくださったうえに両替までしていただきました。このように、ハワイでの生活を通じて心地よい気候や自由な暮らし、多様性と温かさに触れることができ、とても充実した日々を過ごすことができました。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

　ハワイ研修を通じて、私は「自分のやりたいことを堂々とやろう」という気持ちを強く持つようになりました。これまで私は人の目を気にしてしまい、本当にやりたいことがあっても周りからどう見られるかを考えて行動できないことがありました。しかし、現地で出会った人々は自分の思いを大切にし、やりたいことを堂々と実践していました。その姿がとてもかっこよく見え、私も周囲に流されず、自分の意思をしっかり持って挑戦していきたいと思うようになりました。また、ハワイの人々の「アロハスピリット」から、温かく人と接する姿勢を学びました。日本よりも人と人との距離が近く、フレンドリーに声をかけてくれる方が多かったことが印象に残っています。このような温かさを日本のホスピタリティにも活かすことができれば、人と人とのつながりをさらに深められると感じました。さらに、疑問を持つ姿勢の大切さにも気づきました。日本では授業中に質問が少ない場面が多く見られますが、現地の学生は積極的に質問を投げかけ、主体的に学んでいました。その姿勢に感銘を受け、私自身も積極的に疑問を持ち、学びを深めていきたいと思いました。加えて、ハワイのリゾート地ならではの観光への取り組みからも学びがありました。失われたものを取り戻す「リジェネラティブツーリズム」を掲げていたことです。こうした取り組みは、自然と観光の共存を実現し、持続的に愛される観光地へとつながるのだと学びました。この研修を通じて私は、主体性を持って挑戦する姿勢、人とのつながりを大切にする心、そして環境と観光を両立させる視点を身につけることができました。これらの学びを今後の自分の行動に活かし、さらに成長していきたいと思います。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

　ハワイ研修で学んだことを、これからどのように活かしていきたいかをまとめました。まず大切にしたいのは、他人と比べずに「自分がやるべきこと」にしっかり向き合うことです。就活が始まって周りと比べることが増え、「友達がやっているから自分もやる」という考えに流されてしまうことがありました。でも、それでは自分に合ったやり方にはなりません。今回の研修をきっかけに、自分の強みや価値観を大事にして、最適な方法を考えながら行動していきたいと思います。次に、アロハスピリットから学んだ「相手の価値観や考え方を尊重する姿勢」を大切にしたいです。多様な意見を受け入れることで、もっと活発な意見交換ができ、学びの幅も広がると感じました。学校やチームでの活動の中で、相手の意見を尊重できる人になりたいです。また、授業や日常で「なぜ？」「どうして？」と疑問を持つ習慣を増やしていきたいです。現地の学生のように積極的に質問することで、理解が深まり、自分の知識も広がると学びました。さらに、リジェネラティブツーリズムという考え方も印象に残りました。日本でもオーバーツーリズムによる自然破壊が心配されますが、この考え方なら「失ったら終わり」ではなく「どうしたら取り戻せるか」を考えることができます。こうした視点を日本にも取り入れて、周りに発信しながら観光のあり方を見直していきたいです。この研修で得た学びを活かして、これからは自分の成長だけでなく、周囲や地域にも良い影響を与えられるように行動していきたいと思います。

以　上

海 外 研 修 成 果 報 告 書

研修先国および研修機関等：ハワイ大学マノア校（アメリカ）
研修期間：　　2025 年 8 月 31 日（日）～　2025 年 9 月 7 日（日）
1　派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400 字以上） 今回の研修を通じて、アメリカ、特にハワイにおける歯科医療や歯科衛生士教育の先進性について多くの学びがあった。まず、デンタルオフィスの見学では、エックス線装置がチェアサイドに設置されており、レントゲン室が存在しないことに驚き、日本との違いを感じた。また、感染対策も徹底されており、器具のほとんどがディスポーザブルであり、患者さんにも防護メガネを着用してもらうなど安全性への配慮が徹底されていた点が印象的だった。さらに歯科衛生士が診療補助を行わず、歯科アシスタントがその役割を担っていることも日本の制度との大きな違いであった。 ハワイ大学看護学部歯科衛生士科では、麻酔やエックス線撮影など日本では歯科医師が行う業務を歯科衛生士が担当しており、その業務範囲の広さに驚いた。資格取得には筆記と実技の両方の試験が必要であり、免許取得後も継続的な学習が義務付けられている点に専門職としての責任の重さを感じた。 また、シュミレーションセンターの見学では、リアルなマネキンを使って新生児から高齢者まで幅広い患者層を想定した実践的な訓練が行われていた。歯科衛生士の学生も血圧測定やう蝕、欠損歯の確認など医療全体を見据えた学習をしており、より総合的な医療人としての教育が行われていると感じた。全体を通じて、アメリカの歯科医療の先進性と歯科衛生士の専門性の高さに深い感銘を受け、自分自身の今後の学びにも大きな影響を与える貴重な経験となった。
2　派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400 字以上） 研修先での生活を通じて、日本とは異なる文化や日常習慣に多くの学びがあった。特に印象に残ったのは、ドラッグストアで見かけた歯科商品の種類の多さと専門性の高さである。仮封材や過酸化水素が配合されたホワイトニング歯磨剤など日本の薬局ではあまり見かけない商品が多く並んであり、セルフケアに対する意識の違いを感じた。また、横断歩道を渡る際に携帯電話を見ることが禁止されているなど安全に対する意識が高く日本とは異なる信号の表記に戸惑うこともあった。 現地の人々との交流では、その温かさとフレンドリーな態度がとても印象的だった。お店に入ると必ず笑顔で声をかけてくれたり、道ですれ違うだけでも挨拶を交わすことが多かった。また、「Aloha」という言葉は挨拶だけでなく「ありがとう」「またね」「愛」など多くの意味を持つことを知り、その土地ならではの価値観や人とのつながりを大切にする文化が素敵だと思った。短い滞在期間ではあったが、日常の小さな場面から現地の温かい人々との触れ合いで多くのことを学び、充実した研修となった。

３　研修を振り返って

（１）海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400 字以上）

今回の海外研修を通じて、渡航前に想像していた以上に多くの学びと気づきを得ることができた。研修前に日本と海外の歯科医療や歯科衛生士教育の違いについて学んでいたが、実際に現地を見学して体験する中で制度や設備の違いだけでなく、医療に対する考え方や文化的背景の深さを実感することができた。特に歯科衛生士の業務範囲の広さやそれに伴う高い専門性と責任感には大きな刺激を受けた。また、患者さんとの信頼関係を大切にしながら、医療専門職として働く姿に自分もより高い意識を持って学び続けなければならないと感じた。

生活面では、文化や価値観の違いを感じることがあったが人々の温かさや思いやりの心に触れ、国や言語が違っても人と人とのつながりを大切にする姿勢は共通であると感じた。自分の英語が伝わるか不安もあったが、現地で生活し、見学や交流を重ねていく中で言語が完璧でなくても自分の思いを伝えようとする姿勢が大切だということを学んだ。国籍や文化を超えて人と繋がることができるという喜びを実感した。

この研修を通して、自分の視野が大きく広がり国際的な視点で歯科医療を考えるきっかけとなった。今後はこの経験を活かし、より柔軟な考え方と広い視野を持った歯科衛生士を目指していきたい。

（２）（１）を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400 字以上）

アメリカのデンタルオフィスの見学や現地の歯科衛生士の方々のお話を通じて、予防歯科の重要性を改めて実感した。アメリカでは、定期的なクリーニングやセルフケアの指導など患者自身が歯の健康を維持するための意識が非常に高く、それを支える歯科衛生士の専門性も高かった。日本ではまだ「痛くなってから歯科を受診する」という考え方が強いが、将来はそうした意識を変えて予防歯科の重要性を伝えていくことが大切だと感じた。

現地の歯科医療や教育を見学する中で、日本との違いや自分が今学んでいることの意義を再確認する機会にもなった。特に予防歯科の重要性や歯科衛生士の専門性の高さに触れ、自分の将来像を考える良いきっかけにもなった。

今回得た知識や気づきを学部の仲間や後輩にも共有していきたい。研修前よりも視野が広がり、自信を持って行動する力が身についたと感じている。将来は患者さん一人一人に寄り添ったケアを提供しながら、正しい知識とセルフケアの大切さを伝えられる歯科衛生士になりたい。今回の研修で得た国際的な視点と実践的な学びを自分の強みにしていきたいと思う。

以　上